



穆天子傳地名國族名諸説索引

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-06-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 淡川, 剛史, 大形, 徹, 川瀬, 實信, 木村, 秀海, 齋藤, 加奈, 佐々木, 秋人, 佐藤, 信彌, 末次, 信行, 平, 顯子, 高橋, 知寛, 辻尾, 榮市, 馬越, 靖史, 村上, 幸造 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24729/00004507

穆天子傳地名國族名諸説索引

殷周史研究會編（以下編者五十音順）

淡川剛史・大形 徹・川瀬實信
木村秀海・齋藤加奈・佐々木秋人
佐藤信彌・末次信行・平 顯子
高橋知寛・辻尾榮市・馬越靖史
村上幸造

凡例

- 1, 底本は劉殿爵・陳方正主編『穆天子傳逐字索引』（香港中文大學中國文化研究所先秦兩漢古籍叢刊史部第十種、商務印書館、1994年）。
- 2, 上項1の書の底本は『四部叢刊』本（明天一閣本の影印）に依っている。
- 3, 地名・國族名の表記は上項1の書の凡例一之2に定める所の（ ）即ち削除字、[]即ち増補字に従うが、例えば上項1の書に「西王（母）[母]之邦」とあっても、本索引では「西王母之邦」と表記するが如く、削除字は省略し増補字のみを直ちに表示している。
- 4, 親字の畫數は上項1の書に依る。親字の配列は2字目以降も畫數順。ただし□即ち缺字は親字も2字目以降も最多畫數の後に配している。
- 5, ○付き數字は地名・國族名の『穆天子傳』本文での出現卷數（例えば①は「卷一」に見えるの意）を表す。
- 6, （ ）は補足説明。地名に関する補足説明は、清以前の地名は現在の何処に当たるかが解るものだけに附記し、民國以後の地名には必ずしも附記していない。
- 7, []は時代補足。
- 8, 「 」は諸説の他書からの引用部分・譯・論文名、或いは編者の注解本からの引用部分。
- 9, 『 』は書名。
- 10, □は『穆天子傳』本文の缺字（字數は一字とは限らない）。
- 11, 「畫數／地名・國族名」欄の「一」は地名・國族名が「上欄に同じ」の意を表す。
- 12, 「種類」欄の「……」は注解者が地名・國族名として扱っていない場合の表記である。

徴引書目 [] は注解者の朝代或いは國號を表す。ただし中華人民共和國は [現] と表記する。

[清] 王鳴盛校『穆天子傳』乾隆年間 (1736 - 1795年) 校

[清] 洪頤煊校『穆天子傳』嘉慶五年 (1800年) 校 (孫星衍『平津館叢書』嘉慶十一年 (1806年) 蘭陵孫氏刊)

[清] 翟云升校『覆校穆天子傳』(『五經歲徧齋校書三種』道光十二年 (1822年) 序刊)

[清] 陳逢衡『穆天子傳注補正』(『江都陳氏叢書』道光二十三年 (1834年) 刊)

[清] 檀萃『穆天子傳注疏』清咸豐三年 (1853年) 校 (『碧琳瑯館叢書』光緒十年 (1884年) 序、宣統元年 (1909年) 巴陵方氏廣東刊)

[清] 呂吳調陽 (呂調陽)『穆天子傳釋』(『觀象廬叢書』光緒年間 (1875 - 1908年) 刊)

[民國] 章炳麟「膏蘭室札記」三六三馮夷・四三八穆天子傳叢說 (光緒十七 - 十九年間 (1891 - 1893年) 未刊、初収『章太炎全集』(一) 上海人民出版社、1982年)

[清] 孫詒讓「穆天子傳郭璞注」(『札遼』卷十一、光緒二十年 (1894年) 刊)

[清] 孫詒讓「記舊本穆天子傳目錄」(『籀膏述林』卷九、民國五年 (1916年) 刊)

[清] 褚德彝校『穆天子傳』光緒二十八年 (1902年) 校

[清] 盧文弨校『穆天子傳』光緒年間 (1875 - 1908年) 翁斌孫鈔光緒二十九年 (1903年) 校

[清] 郝懿行『穆天子傳注補』清光緒三十四年 (1908年) 金蓉鏡刊、坳金蓉鏡批語

[清] 金蓉鏡『穆天子傳注補』批語 (右に坳す)

[清] 劉師培「穆天子傳補釋」『國粹學報』五卷一 - 四期 (1909年)、又『劉申叔先生遺書』第三十六冊

[民國] 丁謙「穆天子傳地理考證」『地學雜誌』六卷七 - 十一期 (1915年)、又『浙江圖書館叢書』第二集

[民國] 丁謙「穆天子傳記日干支表」『地學雜誌』六卷十二期 (1915年)、又『浙江圖書館叢書』第二集

[民國] 葉浩吾「丁氏「穆天子傳注」訂補」『地學雜誌』十一卷五期 (1922年)

[民國] 沈曾植「穆天子傳書後」『亞洲學術雜誌』三期 (1922年)

[日本] 小川琢治『支那歴史地理研究續集』(弘文堂書房、1928年)、[民國] 漢語譯「穆天子傳考」(江俠庵編譯『先秦經籍考』下冊、商務印書館、1931年)

[民國] 衛聚賢「穆天子傳研究」『中山大學語言歷史研究所週刊百期紀念號』(1929年)、

- 又『古史研究』第二輯（述學出版社、1929年）
- [民國] 張星烺注「穆天子傳」『中西交通史料彙編』第一冊（輔仁大學圖書館、1930年）
- [民國] 顧實『穆天子傳西征講疏』（商務印書館、1934年）
- [民國] 張公量「穆傳山經合證」『禹貢』一卷五期（1934年5月）
- [民國] 張公量「記舊鈔本穆天子傳」『禹貢』二卷五期（1934年11月）
- [民國] 張公量「穆傳之版本及關於穆傳之著述」『禹貢』二卷六期（1934年11月）
- [民國] 張公量「略論山海經與穆天子傳」『華北日報史學周刊』十一期（北平、1934年11月22日）
- [民國] 于省吾「穆天子傳新證」『考古社刊』六期（1937年6月）
- [民國] 高夷吾「讀穆天子傳隨筆」『考古叢刊(北京古學院)』三期（一一十七）（1939年7月）
- [現] 顧頡剛「穆天子傳及其著作時代」『文史哲』1卷2期（1951年7月）
- [現] 岑仲勉「穆天子傳西征地理概測」『中山大學學報』1957年2期、又『中外史地考證』上册（中華書局、1962年）
- [現] 王范之「穆天子傳簡論」『文史哲』5期（1962年10月）
- [現民國] 衛挺生『穆天子傳今考』（臺北中華學術院、1970年）
- [現] 常征「周都南鄭及鄭桓封國辨」『河北大學學報』1978年3期
- [現] 趙儷生「穆天子傳中一些部落的方位考實」『中華文史論叢』第10輯（1979年4月）
- [現] 常征「穆天子傳是偽書嗎？」『河北大學學報』1980年2期
- [現] 錢伯泉「先秦時期的「絲綢之路」」『新疆社會科學』1982年3期
- [現] 靳生禾「穆天子傳若干地理問題考辨」『北京師範大學學報』1985年4期
- [現] 王貽樑·陳建敏『穆天子傳匯校集釋』（華東師範大學出版社、1994年）

畫数／地名・國族名	種類	注解者	比定及び地望	備考	巻数
2畫					
九阿	山丘	郭璞	九坂。〔晉〕新安縣〔現〕河南省澠池縣東・新安市西)十里		⑤
—	山丘	檀萃	九都の和山。〔現〕河南省孟津縣	『山海經』中山經の「縞紙之山」の和山	⑤
—	山丘	陳逢衡	九曲城。〔清〕河南省府陽縣〔現〕河南省宜陽縣)	『括地志』『一統志』による	⑤
—	山丘	呂吳調陽	九河	孟門九河之隘	⑤
—	山丘	王貽樑		郭璞説を是とする	⑤
九阿之隘	山丘	陳逢衡	和山。〔清〕河南(省)孟津縣〔現〕河南省孟津縣)境内	『山海經』中山經の和山(首陽山)	④
—	山丘	丁謙	〔民國〕(河南省)濟源縣〔現〕河南省濟源市)西の十八盤坂	九阿は孟津に近いから、盟門の字を冠した	④
—	山丘	顧實	孟門山に在り。〔民國〕山西(省)吉州〔現〕山西省臨汾市吉縣)		④
—	山丘	張公量	山西(省)の西南境内	九阿を九河のまま考定	④
—	山丘	王貽樑	盟門山〔現〕山西(省)臨汾市吉縣と陝西(省)宜川(縣)間の黄河邊上近くの孟門山)の九阿	九阿は較泛な呼稱	④
二邊	山丘	呂吳調陽	清漳口。〔清〕山西平定府〔現〕山西省平定縣)	清漳は平定に發源する水名	④
—	山丘	丁謙	〔民國〕山西平定州〔現〕山西省平定縣)東		④
—	山丘	顧實	〔民國〕正定の井陘山〔現〕河北省井陘縣東)中		④
—	山丘	王貽樑	井陘〔現〕河北省井陘縣東)		④
3畫					
三苗氏	國族	郭璞	舜が三危〔現〕甘肅省敦煌市)山に竄した者		④
—	國族	小川琢治	重緄氏の一族、禹知・禹氏・月氏と殆ど同族。干闥と關係	三危は甘肅肅州〔現〕甘肅省敦煌市)塞外が有力である	④
—	國族	顧實	〔民國〕塔利木(タム)河・羅布泊(ロブ泊)の北	苗民	④
—	國族	趙儷生	塞種、Saka人		④
—	國族	王貽樑	重緄曼は三危〔現〕甘肅省敦煌市)に竄された三苗		④
三道之隘	山丘	呂吳調陽	北道隘。〔清〕山西(省)平定府〔現〕山西省平定縣)		④
—	山丘	丁謙	〔民國〕山西(省)平定州〔現〕山西省平定縣)東		④
—	山丘	顧實	〔民國〕正定の井陘山〔現〕河北省井陘縣東)中		④
—	山丘	王貽樑	井陘〔現〕河北省井陘縣)の東側		④
大北之隘	山丘	郭璞	太行山〔現〕山西省晉城市)		⑥
—	山丘	丁謙	井陘〔現〕河北省井陘縣)以北の山		⑥
—	山丘	王貽樑	太行山脈中の一山		⑥
大沼	湖澤	陳逢衡	楊家湖。〔清〕河南(省)開封府洧川縣〔現〕河南省尉氏縣洧川鎮)		⑤
—	湖澤	丁謙	洧淵。〔民國〕新鄭市〔現〕河南省新鄭市)西南		⑤
—	湖澤	王貽樑	楊家湖。〔現〕洧川縣〔現〕河南省尉氏縣洧川鎮)西北三里		⑤
大澤			「水滸」參照		③
—	湖澤	丁謙	大澤。〔民國〕裏(カスピ)海	大(マ→水?)澤	③
大曠原	地名	劉師培	裏(カスピ)海附近		④
—	地名	衛挺生	〔現〕新疆維吾爾自治區)疏勒(カシガール)附近。黑砂漠(kara kum)一帶		④
女媧之丘	山丘	郭璞	五鹿〔現〕河北省大名縣、もしくは河南省濮陽市濮陽縣)		⑥
—	山丘	陳逢衡	沙鹿〔現〕河北省大名縣、もしくは河南省濮陽市濮陽縣)の異名		⑥
—	山丘	郝懿行	五鹿城。衛縣〔現〕河南省濮陽市濮陽縣)西北三十里	『水經注』に引く京相璠説	⑥
—	山丘	王貽樑	衛の五鹿。〔現〕河南省濮陽市濮陽縣)	晉の五鹿(河北大名)説を否定	⑥
4畫					
中國	地名			注無し	②

丹黃	地名	呂吳調陽	蒼雍		⑤
—	地名	丁謙		地考うる無し	⑤
—	地名	王貽樑		具體詳し難し	⑤
五鹿	地名	郭璞	五鹿墟。〔晉〕元城縣〔現〕河北省大名縣東郭	晉文公食を野人に乞うの所	⑥
—	地名	盧文弼		五は梧	⑥
—	地名	檀萃	梧鹿	鹿梧の倒文	⑥
—	地名	陳逢衡		晉文公食を野人に乞うの所	⑥
—	地名	丁謙	〔晉〕衛縣〔民國〕淇縣東の衛縣集〔現〕河南省濬縣	晉文公食を野人に乞うの所。杜預の注による	⑥
—	地名	王貽樑	梧鹿。〔現〕河南(省)濮陽(市濮陽縣)北略偏東	晉文公食を野人に乞うの所。盧文弼説・檀萃説を是とする	⑥
太行	山丘	丁謙	太行山の鶴度嶺口。〔民國〕邢州〔現〕河北省邢臺市)		④
—	山丘	顧實	太行山の羊腸坂。〔民國〕河南(省)懷慶府城〔現〕河南省沁陽市)の北	『元和郡縣志』による	④
—	山丘	岑仲勉	隴山〔現〕陝西省寶鶏市)	山西の太行山に非ず。河は渭水	④
—	山丘	常征		大路を太行という	④
—	山丘	衛挺生	天井關〔現〕山西省晉城市)の峽	本文の河を濟るとは孟縣孟津に至ること	④
—	山丘	王貽樑	太行山。山西(省)・河北(省)・河南(省)の界		④
文山	山丘	郝懿行	岷山、汶山〔現〕四川省松潘縣)	『山海經』中山經の岷山、『史記』の汶山	④
—	山丘	陳逢衡		『山海經』中山經の岷山、『史記』の汶山とは別の文山	④
—	山丘	呂吳調陽	扈林哈必爾噶山。〔清〕慶綏城〔現〕新疆維吾爾自治區烏蘇縣)南		④
—	山丘	丁謙	木素爾嶺〔現〕新疆維吾爾自治區拜城縣)		④
—	山丘	顧實	俱密山。〔民國〕哈密〔現〕新疆維吾爾自治區哈密市)		④
—	山丘	王貽樑	〔現〕甘(肅)省・寧(夏)自治區)北部	岷山ではない。具體定め難し	④
—	山丘	小川琢治	黒水の東、砂漠に突出した北山の北辺		④
水澤	湖澤	高夷吾	大澤。〔現〕黒海・阿速(アゾフ)海	『山海經』大荒西經による	③
—			「口藪水澤」参照		③
犬戎	國族	丁謙	本國は〔清〕(甘肅省)西寧府〔現〕青海省西寧市)西北樹敦城	顧棟高『春秋大事表』を引く	①
—	國族	岑仲勉	〔清〕平涼縣・固原州の開(およそ〔現〕陝西省と寧夏回族自治区の交)	戴震『毛鄭詩考正』を引く(『詩經』小雅六月)	①
—	國族	王貽樑	〔現〕甘肅省が主要な活動地區	陝西・寧夏・内蒙・山西・河北などの地でも活動	①
—	國族	小川琢治	犬戎の邦は朔州の北数軒の桑乾河流域・大同府〔現〕山西省大同市)地方	「當水」参照	①
犬戎口胡	國族			注無し	①
5畫					
巨蒐氏	國族	檀萃	渠搜	『尚書』禹貢	④
—	國族	洪頤煊		『史記』匈奴列傳索隱の巨蒐は誤	④
—	國族	陳逢衡	渠搜。〔漢〕朔方郡渠搜縣〔現〕内蒙古自治區オトス)	『尚書』禹貢による。『太平寰宇記』等に葱嶺(パミール高原)西五百里とするのとは合わない	④
—	國族	呂吳調陽	渠搜。〔清〕烏魯木齊〔現〕新疆維吾爾自治區迪家縣)	『尚書』禹貢	④
—	國族	丁謙	渠搜。焉耆府〔現〕新疆維吾爾自治區焉耆縣)	『尚書』禹貢。裕勒都斯河の東南	④
—	國族	沈曾植	渠搜。〔民國〕梁州の北、青海(省)・西藏の交界	『尚書』禹貢	④
—	國族	小川琢治	〔漢〕朔方郡(渠搜縣)〔現〕内蒙古自治區オトス)	『漢書』地理志。賀蘭山脈の西	④
—	國族	顧實	渠搜〔民國〕土謝圖汗の南端、喀爾喀(ハルハ)右翼旗、烏喇特(オラト)旗の接界。陰山より北	コサック(kosaks, Cosack)か	④
—	國族	張星烺	渠搜。〔民國〕俄(ロシア)領費爾加加(フェルガナ)省	渠搜は漢の大宛、隋の罽汗、唐の拔汗那	④
—	國族	高夷吾	渠搜。〔民國〕撒露臺耶州境	『尚書』禹貢	④
—	國族	岑仲勉	渠搜。肅州〔現〕甘肅省酒泉市)以西より〔現〕新疆維吾爾自治區東部鄯善に至る一帯	『尚書』禹貢	④
—	國族	趙儷生	渠搜。河套(オトス)	『尚書』禹貢	④
—	國族	衛挺生	沙井子驛站		④

一	國族	常征	渠搜。河西回廊の皋蘭山([現]甘肅省蘭州市)一帶	戰國時に河套(オホス)を去って蒙古高原に遷居	④
一	國族	錢伯泉	渠搜。周の北方、河套(オホス)の内外	『逸周書』王會解・『水經注』河水による。後に一部は朔方郡に残り、他は葱嶺(パミル)の西に移動	④
一	國族	王貽樸	渠搜。[現]陰山([現]河套(オホス)の西北)の東麓の北、數百里の處		④
平衍之中	地名	郭璞		衍とは墳より一等下る地の種類で、『周禮』(大司徒)にみえる	②
一	地名	陳逢衡		樂野のこと	②
一	地名	顧實	阿母(アム)河の下流	樂野のこと。撒馬爾干(Samarkand、サマルカント)・布哈爾(フハラ)・土蘭平原(Turan Plain)はみな平衍之中	②
平泉	泉	陳逢衡		平壤(ほどよい深さの意か)の甘泉	①
一	泉	顧實		大野の泉	①
一	泉	衛挺生	[清]沙車府(葉爾羌、ヤルカント)([現]新疆維吾爾自治區沙車縣)	回(ウイグル)語の葉爾は平野、羌は広い	①
戊口之山	山丘	呂吳調陽	浮遠城。[清]奇臺縣の西北([現]新疆維吾爾自治區)		③
一	山丘	丁謙	[民國]溪西爾亞城の西の山	曠原(カス'海東)から遠くへ行っていないはず	③
一	山丘	顧實	華爾泰岡(Valdai Hills)。[民國]俄國(ロシア)ス摩梭斯克(Smolensk)と莫斯科(Moscow)の間	戊と華Valは近い音	③
一	山丘	高夷吾	[民國]端捏茨山		③
一	山丘	衛挺生	[現]Kizil Arvat山(蔡基山、キシル・アルヴァト山)。 ([現]トルクメニスタン)	高陴(コッパ・コベト)山脈中の山。高さ1356米	③
一	山丘	王貽樸	[現]新疆維吾爾自治區の巴里坤(バルコル)或いは哈密(ハミ)附近		③
一	山丘	小川琢治	博克圖(ボゴタ)山(天山山脈中の一山)。 [現]新疆維吾爾自治區の博格達峰	戊は戊字の誤り。伐多=(卷四の)陽紆の蕃多=博克圖(ボゴタ)山	③
玄池	地名	檀萃	沈淵	『山海經』の沈淵で、黑色だから元(マ)池。	②
一	地名	陳逢衡	黒水の支流	黒水の支流が停蓄して小水となったもの。『山海經』の沈淵ではない	②
一	地名	呂吳調陽	[清]黃草湖		②
一	地名	劉師培	[唐]雷轟海[民國]鹹(アラル)海	『唐書』による	②
一	地名	丁謙	登吉斯湖。[民國]布哈爾(フハラ)城。([現]ウズベキスタン)西南		②
一	地名	顧實	登吉斯湖。錫爾(シル)河のほとり	シル河とアム河間の乍拉福山(ザラフشان)河の支流が最も多く流入するのが登吉斯湖	②
一	地名	岑仲勉	鹹(アラル)海の故址		②
一	地名	錢伯泉	伊塞克(イシクル)湖。([現]キルギス)	伊犁(イ)の西	②
一	地名	王貽樸	泓澤(羅布泊)。[現]新疆維吾爾自治區	別名は蒲昌海・鹽澤・輔日海・穿蘭(穿蘭海)・臨海	②
一	地名	小川琢治	冥澤(哈拉泊)よりも遙かに東の蘇頼河に沿った池澤。 ([現]甘肅省)		②
瓜纒之山	山丘	呂吳調陽	[清]巴里坤(バルコル)。鎮西府([現]新疆維吾爾自治區巴里坤縣)		③
一	山丘	丁謙	[民國]庫克求別山。謀夫の東		③
一	山丘	小川琢治	哈密(ハミ)([現]新疆維吾爾自治區哈密市)附近	後漢の伊吾廬(ママ→廬)であると推定	③
一	山丘	顧實	[民國]烏拉爾(Ural)山		③
一	地名	衛挺生	Agatma盆地	Agatma盆地は城垣の様に西・北・東の三面を山が圍む	③
6畫					
因氏	國族	郭璞	國名		⑥
一	官臺	陳逢衡	遂の因氏。因は河に近し	『左傳』莊公十七年及び『路史』國名紀	⑥
一	國族	呂吳調陽	[清]開州([現]河南省濮陽市濮陽縣)		⑥
一	國族	丁謙	重璧臺東の河の南岸		⑥
一	國族	王貽樸	重璧臺の東の河の南岸	遂因氏説を否定	⑥

—			「遂因氏」参照		⑥
曲山	山丘	呂吳調陽	修武([現]河南省沁陽市)の西		⑤
—	山丘	丁謙		未詳	⑤
—	山丘	王貽樑	河南(省)中部の嵩山より北西部の九阿に至る間	地未詳	⑤
曲洛	地名	郭璞		洛水の回曲	⑤
—	地名	洪頤煊	曲珂驛。[宋]偃師縣([現]河南省偃師市)東北		⑤
—	地名	呂吳調陽	肥泉水		⑤
—	地名	丁謙		未詳	⑤
—	地名	王貽樑	洛邑より(黄)河に入るまでに在り	洛水の曲折する處。	⑤
竹林	地名	洪頤煊	司竹園。[宋]整饒縣東一十二里([現]陝西省西安市)	『太平寰宇記』三十整屋縣下	②
—	地名	顧實		中央アジアの竹は有名。印度語で觀貨邏蓬奢。觀貨邏とは大夏、蓬奢は竹(韋炳麟説)	②
羽琤	地名	檀萃	羽陵	琤を陵とし、羽澤中の高陵という	③⑤
—	地名	陳逢衡		曠原の低い場所	③⑤
—	地名	顧實	卷三後文の羽陵。波蘭(Poland、ポーランド)の華沙(Warsaw、ワルシャ)の地か	卷二・卷五の羽陵とは同名異地	③⑤
—	……	王貽樑	羽岑	岑は琤の正字で、『説文』に「山の小にして高きもの」という	③⑤
—	山丘	丁謙	羽陵か	羽が山の様に積もった結果腐亂した土。琤を陵の訛字とするか。卷二・卷五の羽陵とは同名異地	③⑤
羽陵	地名	丁謙	未詳とする一方で、英吉沙爾(イェギサル)の地とも言う。([現]新疆維吾爾自治區疏勒縣の南)	群玉山からは遠くない	②③⑤
—	山丘	顧實	[民國]葉爾羌(ヤルカント) ([現]新疆維吾爾自治區莎車縣)の境内。	羽陵は丘陵であり、その頂上は禽鳥が羽を落とす所であるから名がついた。卷二の羽陵の地	②③⑤
—	山丘	顧實	卷五の羽陵の地。[民國]河南(省)	卷二・卷三の羽陵とは同名異地	②③⑤
—	地名	高夷吾	[民國]冰達坂		②③⑤
—	山丘	衛挺生	[現]鐵格山或いは海立雅山		②③⑤
西土	地名	郭璞	岐山の麓、[晉]扶風美陽([現]陝西省西安市)		②④
—	地名	陳逢衡	[清]陝西同州府武功縣([現]陝西省武功縣の西南)		②④
西王母之山	山丘			注無し	③
西王母之邦	國族	衛挺生	謀夫にはなく、大夏の都にある	古維爾(黃鼠之山)から出て西南に行き、今の乞爾欽札克(Qirqinchak Cuzar)に至る(西王母之邦に至る前の行程)	②④
—	國族	陳逢衡		西王母は西荒の國名で、この國の君長	②④
—	國族	劉師培	今のペルシアの東北。西周期には亞西里亞(アッリア)國が宅した所		②④
—	國族	丁謙	亞西里亞(アッリア)ニニ微(ニニ微)城	西王母は古代の加勒底(カレテ)の月神	②④
—	國族	顧實	波斯(ペルシア)第希蘭(Teheran、テヘラン)附近	しかし西王母の舊居を考えると今の中國の新疆であり、『穆天子傳』とは異なる	②④
—	國族	張星烺	[現]撒馬爾罕(Samarkand、サマルカント)附近		②④
—	國族	常征	[現](甘肅省)張掖(市)の南山を過ぎず	西王母は西周時代になお母系氏族制を留めていた河西の一部落及びこの部落の女酋長	②④
—	國族	錢伯泉	[漢]安息國、或いは小安息([現]イランの東北部)	『後漢書』西域傳による。其の里程と合致する	②④
—	國族	王貽樑	[現]新疆維吾爾自治區の塔里木盆地(タム盆地)と塔里木河(タム河)東北縁の庫爾勒(コルラ)・尉犁(ユール)一帶		②④
—	國族	小川琢治	西宛。大宛と同一民族	西王母は西宛の緩音。「瑤池」参照	②④
西夏氏	國族	小川琢治	大夏。[現]亞爾泰(アルタイ)山脈東南端の南麓	『逸周書』『史記』の大夏に該當	④
—	山丘	檀萃	大夏		④
—	國族	洪頤煊		『逸周書』史記解の西夏	④
—	國族	陳逢衡	大夏	『山海經』海内東經の流沙外にある大夏	④

—	國族	呂吳調陽	[清]格子煙墩軍臺の近く		④
—	國族	沈曾植	月氏。[現]青海(省)	『逸周書』王會解の大夏。漢以前の月氏の故地	④
—	國族	丁謙	珠余。[民國]庫車([現]新疆維吾爾自治區)	珠余の庫車に在る者	④
—	國族	顧實	大夏河。[民國]甘肅(省)蘭州府([現]甘肅省蘭州市)・河州の西		④
—	國族	衛挺生	大夏。大夏河([現]甘肅省の導河)	『水經注』の「大夏河は大夏の故城の南を經」による	④
—	國族	高夷吾	析支。[現]青海(省)・西藏(自治區)	西夏・珠余は『尚書』禹貢の析支	④
—	國族	岑仲勉	[現]羅布泊附近		④
—	國族	王貽樑	大夏。[現]甘肅(省)・青海(省)・寧夏回族自治区一帶		④
—	國族	劉師培	[民國]甘肅(省)西南		④
西膜	地名	郭璞		砂漠の郷(むき(方向)の意か)	②④
—	國族	章炳麟	賽模(セム)民族		②④
—	國族	劉師培	塞種	『漢書』西域傳による。「西膜」は塞米の轉音、塞は「西膜」の省音	②④
—	國族	丁謙	塞種(仙摩、塞米的、西米科特とも書く)	人種名。『漢書』にいう塞種。亞西里亞(アッリア、本傳の西王母邦)國の建設人種	②④
—	國族	沈曾植	([現]四川省か)	音は須彌に近い。漢代の西南夷の舟馳(ママー馳)は西膜の同音異字か	②④
—	國族	岑仲勉	([現]新疆維吾爾自治區内)	西膜の言葉で擧げられている地は、すべて今の新疆の範圍内に屬し、『漢書』の西域南道。西膜はバビロンの古名Samasに相應	②④
—	地名	趙儼生		西極、西胡、西域と同義語かどうか、待考	②④
—	國族	常征	塞種のうち河西回廊の武威([現]甘肅省武威縣)地區に進入した者	『史記』の塞種。或いは塞米・索密・薩莫・謝米	②④
—	地名	王貽樑	後人がいう西域の如し	一地一國の名に非ず。膜は廣漠の漠	②④
—	國族	丁謙	塞種		②④
—	國族	顧實	[民國]哈密([現]新疆維吾爾自治區哈密市)	沙漠の西という意、また茂苑。西方の大國	②④
—	國族	衛挺生	突厥語系。[現]甘肅以西、大夏邊境及び裏(カスピ)海・鹹(アラ)海に至る		②④
—	國族	王貽樑	(西域か)	西は中域に對する語で、沙漠の西の意ではない	②④
—	地名				②④
7畫					
沙衍	……	郭璞		水中に沙有る者(中洲)	③
—	……	檀萃		砂地で平坦な廣い場所	③
—	……	陳逢衡		流沙のこと。衍は「墳衍」の衍の如し	③
—	地名	呂吳調陽	[清]鎮西(府)([現]新疆維吾爾自治區巴里坤(ハルコール))の東西に廣がる黑帳房磧		③
—	地名	劉師培	[民國]裏(カスピ)海の東にある砂漠		③
—	地名	顧實	吉利吉思(キルギス)荒(マ)原。	裏(カスピ)海と鹹(アラ)海の北部にある乾燥地	③
—	地名	岑仲勉	Qizil Qum(キジルクム)(赤沙の意)砂漠		③
—	地名	王貽樑	西は甘肅省と內蒙古自治區の西北角から、東は河套の西側まで、南は甘肅省・寧夏回族自治区の古長城の北限から、北は阿拉善(アラハ)高原までの巨大な砂漠(一番よく知られているのは、巴丹吉林(バダインジャラン)砂漠と騰格里(テンクリ)砂漠)	古代の流沙	③
免臺	宮臺	檀萃	免氏亭。虎牢([現]河南省汜水縣の西北)	鄭地	⑤
—	宮臺	洪頤煊	免臺。(黃)河の北	『史記』趙世家の正義。王貽樑は免臺の今地を河南省內黃縣と濮陽市濮陽縣との間とする	⑤
—	宮臺	陳逢衡	免氏城。[清]河南開封府尉氏縣([現]河南省尉氏縣)東北四十里		⑤

—	宮臺	丁謙	免臺。(黃)河の北	『史記』趙世家の正義。今地未詳	⑤
—	宮臺	王貽樑		免臺も免氏も合わず。當に更に別に地を求むべし	⑤
周	國族			注無し	②
周宗	地名	洪頤煊	宗周の誤り	『藝文類聚』卷六十七による	②
姑蘇之水		陳逢衡		姑蘇之木の誤	⑥
—	河川	丁謙	重璧臺の傍にある小澗	北流して河に入っていたが汴渠完成後は舊蹟無し	⑥
—	河川	張公量	[現]河南省の嵩山と魯山の間	『山海經』中次北經の姑蘇之山	⑥
赤水	河川	陳逢衡		『太平御覽』八十五は「昆侖山に赤水が有り東北に流れている」という『山海經』の記述を引用している	②
—	河川	呂吳調陽	[清]烏蘭烏蘇。(〔現〕新疆維吾爾自治區)	裕勒都斯(ユルダス)河に合流し、博斯騰淖爾(ボステン湖)となる	②
—	河川	丁謙	[民國]喀什噶爾(カシュガル)河。(〔現〕新疆維吾爾自治區)	『新唐書』地理志の赤河、『西域水道記』の赫色勒河。赫色勒は回(ウイグル)語の赤である	②
—	河川	葉浩吾	(〔現〕青海省)巴顏喀喇(パヤカラ)山(附近)	上の昆侖之阿を参照	②
—	河川	顧實	[民國]那木齊圖烏蘭木倫河。(〔現〕青海省)	モンゴル語で赤色を烏蘭という	②
—	河川	張公量	[民國]烏蘭木倫河。(〔現〕青海省)	烏蘭木倫河は湟水の支流(董祐誠説)	②
—	河川	顧頡剛		『山海經』西山經に、赤水は昆侖から出て東南に流れると言っているのは、こことまさしく合致する	②
—	河川	岑仲勉	于闐(ホタン)河。(〔現〕新疆維吾爾自治區)		②
—	河川	趙儼生	恆(カンジス)河の上流、或いは怒(ヌ?)江の上流		②
—	河川	常征	(〔現〕青海省湟中縣附近)	昆侖丘を青海省湟中縣にあるとし、昆侖丘の南、黄河に注ぐ溪川は河床に赤い石が多く、これが赤水であるとみなす	②
—	河川	衛挺生	[現]喇斯庫穆河。葉爾羌(ヤルカント)河の上流遠源。(〔現〕新疆維吾爾自治區)	『山海經』西山經の丹水	②
—	河川			実際には昆侖の東にある	②
赤烏	國族	陳逢衡	春山の西(〔現〕寧夏回族自治区・陝西省・甘肅省)	『史記』匈奴列傳には、岐・梁山・涇・漆の北に烏氏之戎があり、赤烏氏の遺種	②
—	國族	陳逢衡		文献中の三烏氏のこと	②
—	國族	丁謙	[民國]瓦罕(ワカン)部 (〔現〕タジキスタン(パミール南))		②
—	國族	葉浩吾	[民國]北印度(北インド)克什米爾(カシミール)	赤烏之人は外道姿(マ)羅門の徒	②
—	國族	張星烺		丁謙「大唐西域記理考證」の達摩悉鐵帝を『唐書』では護蜜・護蜜多に作り、古代の赤烏氏とするという説に従う	②
—	國族	小川琢治	春山の西方に連互した處。(〔現〕甘肅省)	禺氏・禺知と同じ。禺知の項を参照	②
—	國族	顧實	興都庫士(ヒンドクワシ)の西部、阿富汗(アフガニスタン)境内	上古のこの附近の統名は春山	②
—	國族	高夷吾	什瓦帕米爾。帕米爾(パミール)高原西麓		②
—	國族	岑仲勉	[現]塞勒庫勒		②
—	國族	衛挺生	阿爾楚爾(アルチュル)湖から約300里前後、什窪(Shiwa)湖一帯。(〔現〕アフガニスタン)	什窪(Shiwa)は赤烏に對應する音	②
—	國族	錢伯泉	[現]パミール東部、新疆(維吾爾自治區)塔什庫爾干(タシュクワン)東境		②
—	國族	(王貽樑)	祁連山脈の区域内(〔現〕甘肅省・青海省の交)		②
—	國族	王貽樑		烏孫と關連あり。烏孫はもと敦煌・祁連間に居住	②
赤烏氏	國族	顧實	興都庫士(ヒンドクワシ)		④
—	國族	劉師培	印度(インド)河西北・阿母(アム)河上流		④
邢			9畫「邢」参照		
8畫					
事皇天子之山	山丘	檀萃		山は湯泉口に在り	④

—	山丘	陳逢衡	天子障・天子都・天帝之山	『山海經』海内南經・海内東經・西山經	④
孟氏	……	檀萃		人名で孟兪とする	⑤
—	地名	陳逢衡	孟涂國。[宋]河南(省)孟津偃師([現]河南省洛陽市)西三十一里	『路史』國名紀六による	⑤
—	地名	王貽樑	雀梁の東或いは北		⑤
—	地名	丁謙	雀梁と近い。汜水の境		⑤
宗周	地名	郭璞	成周		④
—	地名	小川琢治	成周		④
—	地名	錢伯泉	成周		④
—	地名	劉師培	(河南)		④
—	地名	顧實	洛邑王城。[民國]河南(省)洛陽城内西偏。周の王城遺跡		④
—	地名	衛聚賢	洛陽([現]河南省洛陽市)		④
—	地名	張公量	鎬京([現]陝西省長安縣の西南)	穆王は還りて陝西の境に抵る	④
—	地名	常征	南鄭([現]陝西省華縣)		④
—	地名	王貽樑	洛邑([現]河南省洛陽市西南五里)		④
—	地名	衛挺生	洛邑([現]河南省洛陽市西南五里)		④
—	地名	王貽樑	洛邑([現]河南省洛陽市西南五里)	洛邑に周人の宗廟有り	④
居慮	地名	岑仲勉	居慮。([現]新疆維吾爾自治區)	『魏略』には鄯善(故樓蘭)の東南に居慮倉という地名がある。居慮・居慮は一音の轉	②
房	國族	郭璞	房子([現]河北省臨城縣もしくは高邑縣の西南)。趙國に屬す	地に嶺山有り	⑤
—	國族	檀萃	房子國。[漢]汝南郡吳房縣([現]河南省遂平縣)		⑤
—	國族	洪頤煊	房子。[宋]臨城([現]河北省臨城縣)	『太平寰宇記』六十	⑤
—	國族	陳逢衡	[北魏]房城([現]河南省遂平縣)	『水經注』濟水	⑤
—	國族	呂吳調陽	尉氏に在り		⑤
—	國族	丁謙	圃鄭の東	春秋の房子國に非ず	⑤
—	國族	衛挺生	圃田澤([現]河南省中牟縣の西)の東		⑤
—	國族	王貽樑		吳房縣説も臨城縣説も合わず。考察を待つ	⑤
昆侖	國族	陳逢衡	昆侖	『尚書』禹貢	①②④⑤
—	國族	顧實	昆侖	『尚書』禹貢・『逸周書』王會に見える	①②④⑤
昆侖口	山丘	郭璞		昆侖山	①
昆侖丘	地名			注無し	②
昆侖之丘	山丘			注無し	①②④
昆侖之丘	山丘	劉師培	西藏(チベット)		①②④
—	山丘	洪頤煊	([現]甘肅省酒泉市南)	『十六國春秋』馬岌の上言「酒泉の南山は昆侖の體(すがた・かたち)」	①②④
—	山丘	劉師培	[民國]喜馬拉(ヒマラヤ)山の南岸	佛典の須彌、今の轉音では喜馬拉	①②④
—	山丘	顧實	昆侖山脈。[民國]後藏・新疆間([現]西藏中部・新疆維吾爾自治區間)	『漢書』西域傳に言う「于闐の南山」	①②④
—	山丘	小川琢治	珠余(すなわち壽余)氏に屬する南山の北斜面の山([現]甘肅省)		①②④
昆侖之阿	山丘	檀萃	昆侖之丘	(『山海經』)西山經[西次三經]の「昆侖之丘」。 (編者補:阿を丘とする)	②
—	山丘	陳逢衡		昆侖(小昆侖)の東南隅。(編者補:阿を隅とする)	②
—	山丘	呂吳調陽	昆侖は威懷勒晶嶺。[清](新疆省)([現]新疆維吾爾自治區)綏來縣南		②
—	山丘	丁謙	[民國]昆侖山は和闐([現]新疆維吾爾自治區和田縣)の南	(專論「漢書西域傳地理考證」昆侖山考を参照)	②
—	山丘	小川琢治	昆侖は涼・甘兩州([現]甘肅省武威縣・張掖市)の中間	壽余が『漢書』霍去病傳の酋涂・構餘であることから	②
—	山丘	葉浩吾	昆侖は巴顏喀喇(バヤカラ)山。([現]青海省)	昆侖と赤水は同じ地にある	②
—	山丘	顧實	昆侖は[民國]巴顏喀喇(バヤカラ)山の西部、那木齊圖烏蘭木倫河の北岸。([現]青海省)	(編者補:阿を丘とする)	②
—	山丘	沈曾植	昆侖之丘は[民國]葱嶺([現]新疆維吾爾自治區東南、疏勒・蒲犁等の縣の西辺)の東西・葱嶺の南北、漢の西域諸國の位置	(編者補:阿を丘とする)	②

—	山丘	張公量	[民國]甘肅省涼州(武威)古浪縣([現]甘肅省武威地區古浪縣)に近い地		②
—	山丘	高夷吾	昆侖丘は[民國]帕米庫爾得	(編者補:阿を丘とする)	②
—	山丘	岑仲勉	昆侖は[現]于闐(新疆維吾爾自治區和田縣)の南山	「阿」は邊緣の地のこと。赤水=于闐河の北	②
—	山丘	王范之	昆侖之丘は[現]甘肅省の境域内	(編者補:阿を丘とする)	②
—	山丘	常征	昆侖丘は[現]青海省湟中縣に在り	昆侖=古代の昆侖丘	②
—	山丘	衛挺生	昆侖は[現]K2(カフカム2號)、或いはMount. Godwin-Austen(ゴドウィン・オースティン山、奧斯騰峰)	中國名は喬戈里(チョゴリ)峰	②
—	山丘	錢伯泉	昆侖は[現]于闐(新疆維吾爾自治區和田縣)の昆侖山		②
—	山丘	王貽樑	昆侖は祁連山。[現]甘肅省酒泉市南		②
東土	地名			注無し	③
東牡	地名	王貽樑		義未詳とする	⑤
東吳	地名			注無し	②
東虢	國族	陳逢衡	[宋]河北道孟州汜水縣([現]河南省汜水縣)	『太平寰宇記』による。『太平御覽』に引いて東虢に作る	⑤
—	國族	郝懿行	成皋縣([現]河南省汜水縣)	『水經』による	⑤
—	國族	孫詒讓	東虢		⑤
—	國族	王貽樑	東虢([現]河南省滎澤縣)		⑤
枝持	河川	錢伯泉	湟水。([現]青海省)	積石之南河と同處	①
河	河川	檀萃	漢の鄧居水、匈奴の極北、燕然山の北。([現]モンゴル國)	(編者補:鄧居水はバikal湖に注ぐ)	①④⑥
—	河川	岑仲勉	張掖河。([現]甘肅省張掖市)		①④⑥
—	河川	趙儼生	河套。([現]內蒙古自治區)	岑仲勉説を批判	①④⑥
—	河川	錢伯泉	汾河が黄河に入る所。[現]山西省と陝西省の交		①④⑥
—	河川	靳生禾	[現]河套一帶の黄河。([現]內蒙古自治區)	岑仲勉説を批判	①④⑥
—	河川				①④⑥
—	河川	小川琢治	黄河の北端支流(北河)が北から南折する所([現]內蒙古自治區)		①④⑥
—	河川	王貽樑	烏加河。[現]河套西端。([現]內蒙古自治區)		①④⑥
—	河川		五鹿の南、黄河の邊上	其の地所在不明	①④⑥
河之水 北阿	河川	顧實	黄河故道		①④
—	河川	衛挺生	[現]五加河水の北阿。(中華民國綏遠省特別區域内)		①④
河水	地名	岑仲勉	塔里木(タム)河。([現]新疆維吾爾自治區)	西戎の人は誤って黄河の重源としている	①②④
—	地名	王貽樑		塔里木(タム)河ではない。黄河の支流	①②④
河水之阿	河川	顧實	山黛湖の西北、黄河東南流の屈曲處。([現]內蒙古自治區)	「阿」を曲隅と解す	①④
—	地名	顧實	[民國]穆尼烏拉山の南、烏喇特後旗の東、三虎河の西か。([現]內蒙古自治區)		①④
—	山丘	衛挺生	([現]內蒙古自治區)包頭市の西山嘴附近の平野		①④
河水之陽	地名	小川琢治	[漢]武威郡樸(マ→撲)柏縣附近。([現]甘肅省)	膜書の封域は涼州(武威)の東南で、涼・蘭兩州の街道以東の地	②
—	地名	顧實	[民國]積石の南河北岸。青海省土爾扈特(トクト)旗及び和碩特(ホクト)旗の境域内([現]青海省東南部)	西北に曲がりくねっていくと、柴達木(ツァイダム)河の北岸一帶に達する	②
—	河川	岑仲勉	河水は塔里木(タム)河。([現]新疆維吾爾自治區)	西北の部族が誤って黄河の重源とした	②
河伯	……	檀萃		馮夷	①
—	……	陳逢衡		河宗伯(マ→柏)天	①
河伯無夷	……	郭璞		無夷は馮夷。『山海經』に冰夷と言う	①
河宗	……	檀萃		河の祀を司る者の職名とする	①
—	國族	檀萃	黄河の源流		①
—	……	陳逢衡		河伯馮夷を人名とする。河宗氏の遠祖で、夏代に治水をよくした河伯	①
—	國族	常征	([現]甘肅省)蘭州(市)		①
河宗之邦	國族	劉師培	陝西・甘肅		④
河宗氏	國族	洪頤煊	[唐]嵐州・勝州の地 ([現]山西省嵐縣・內蒙古自治區托克托あたりか)	『史記』趙世家正義を引く	①
—	國族	丁謙	星宿海。([現]青海省)		①

—	國族	顧頡剛	河套。〔現〕內蒙古自治區)	趙武靈王の遠征に関わる	①
—	國族	王范之	雁門の西北の黄河沿い		①
—	國族	趙儼生	河套。〔現〕內蒙古自治區)		①
—	國族	王貽樑	河套。〔現〕內蒙古自治區)	顧頡剛説・趙儼生説を是とする	①
河首	河川	衛聚賢	星宿海。〔現〕青海省	導河自ら循化・貴徳を経て星宿海(舊日以て河首と爲す)に至る	④
—	河川	呂吳調陽	無達中國河の首		④
—	河川	小川琢治	〔現〕甘肅(省)蘭州市・寧夏(回族自治區)中衛縣西の峡谷から平地に出た所	河首とは黄河の上流の溢れた所	④
—	河川	丁謙	〔民國〕瑪喇巴什廳の地〔現〕新疆維吾爾自治區阿克蘇縣)		④
—	河川	顧實	〔民國〕青海の達布遜淖爾。〔現〕青海省)		④
—	河川	衛聚賢	鄂陵海。〔現〕青海省		④
—	河川	岑仲勉	于闐河が塔里木河に流入する處。〔現〕新疆維吾爾自治區)		④
—	河川	常征	蘭州〔現〕甘肅省蘭州市)地區	漢末の臨夏枹罕の宋建は河首平漢王と稱す	④
—	河川	劉師培	〔民國〕青海河源。〔現〕青海省)		④
河濟之閒	地名	丁謙	〔民國〕懷慶府〔現〕河南省沁陽市)の境		⑥
—	地名	王貽樑	河南省原陽・延津・封丘・長垣・濮陽の閒	山東省范縣・鄆城・荷澤などが内に包括される	⑥
虎牢	地名	郭璞	〔晉〕滎陽成臯縣〔現〕河南省汜水縣)		⑤
—	地名	檀萃	〔清〕鄭州汜水縣〔現〕河南省汜水縣)		⑤
—	地名	洪頤煊	北制。〔清〕開封府汜水縣〔現〕河南省汜水縣)		⑤
—	地名	陳逢衡	〔漢〕成臯。〔清〕開封府汜水縣〔現〕河南省汜水縣)		⑤
—	地名	呂吳調陽	制。〔清〕中牟縣〔現〕河南省開封市西)		⑤
—	地名	丁謙	〔民國〕鞏縣〔現〕河南省鞏縣)東	『後漢書』郡國志の注	⑤
—	地名	王貽樑	北制・成臯。〔現〕河南滎陽縣汜水鎮)		⑤
郟	地名	郭璞	鄭の邑		⑤
—	地名	王鳴盛	枹。〔晉〕泰山黃縣〔現〕山東省黃縣)の枹亭	『左傳』の枹を『穀梁傳』に郟に作る	⑤
—	地名	盧文弨		枹は即ち柄・郟	⑤
—	地名	檀萃	休與之山		⑤
—	地名	洪頤煊	枹		⑤
—	地名	陳逢衡	枹城。〔清〕山東沂州費縣治西〔現〕山東省臨沂縣)		⑤
—	地名	呂吳調陽	河内の長明溝		⑤
—	地名	劉師培	房(房子)	上文の房	⑤
—	地名	丁謙	中牟縣の地〔現〕河南省開封市西)		⑤
—	地名	王貽樑	陳の防邑。〔現〕河南(省)淮(縣)北	未だ確かならず	⑤
長沙之山	山丘	檀萃	長沙之山	『山海經』西山經。沘水の出づる所	④
—	山丘	洪頤煊	長沙之山	『山海經』西山經。沘水の出づる所	④
—	山丘	高夷吾	長沙之山	『山海經』西山經。沘水の出づる所	④
—	山丘	呂吳調陽	〔清〕〔現〕新疆維吾爾自治區)安臯縣東		④
—	山丘	顧實	沙山。〔民國〕新疆哈喇沙爾の南〔現〕新疆維吾爾自治區焉耆縣)		④
—	地名	岑仲勉	焉耆〔現〕新疆維吾爾自治區焉耆縣)の南の沙山	顧實の説に従う	④
—	山丘	衛挺生	巴爾庫山の南麓。哈密縣(中華民國新疆省哈密市)西		④
—	山丘	王貽樑		『山海經』西山經の長沙之山	④
—	山丘	丁謙	崆郭阿拉陶(クガ イラ タ)山。特穆爾圖泊の北	『山海經』西山經の長沙之山、沘水の出づる所。巴爾哈什(バハシ)湖に入る	④
長松之陞	山丘	洪頤煊	長松水。西河郡陰山縣〔現〕陝西省宜川縣)	『水經注』河水	④
—	山丘	陳逢衡	〔漢〕西河郡陰山縣〔清〕陝西延安府宜川縣〔現〕陝西省宜川縣)東南		④
—	山丘	顧實	〔清〕朔平府右玉縣〔現〕山西省右玉縣)牛心堡の迤北一帯	かつて大松樹山あり。『水經注』河水注に「陰山縣に長松水有り」とある	④
—	山丘	王貽樑		顧實説を近しとする	④
長肱	國族	郭璞		臂の長い人(三丈)。『山海經』に見える	②
—	國族	陳逢衡		古の賢人の末裔	②

—	……	丁謙		その地の酋長の名とする	②
—	國族	顧實		かつて周と婚姻関係を結んでいた族	②
—	國族	高夷吾		『爾雅』(釋地)の邠國で、大荒西經に「西周之國」、海内經に「都廣之野」という	②
—	……	王貽樑		人名で、穆王の臣子(同姓)、或いは赤烏の長季綽の後裔(また同姓)	②
長浞	地名	洪頤煊	長沙之山	浞は沙の譌	④
—	地名	陳逢衡	長肱。甘肅の附近、黒水の西	長浞は地の高阜なる處	④
—	地名	趙儂生	蘇縣(ソ連)費爾干(フェルガナ)省		④
—	地名	褚德彝		長浞の譌	④
—	地名	呂吳調陽	[清]果子溝		④
—	地名	丁謙	撒馬兒罕(サマルカント)東北一帯の沙磧地		④
—	地名	顧實	廓克沙勒山脈(Kok-Shal M. t. s). 伊錫克庫爾湖(Issik Kul)の南。ソソとの境界	『一統志』の喀克沙勒山	④
—	地名	王貽樑	居延([現]寧夏回族自治区居延市)に近し。	下文の長沙之山とは別	④
9畫					
南河			「積石之南河」参照		
南鄭	國族	郭璞	[晉]京兆鄭縣([現]陝西省華縣)		④⑤⑥
—	國族	陳逢衡	[漢]京兆尹鄭縣([現]陝西省華縣)	西鄭在京兆、南鄭在漢中	④⑤⑥
—	國族	呂吳調陽	京兆([現]陝西省華縣)には在らず	宋の王觀國説による	④⑤⑥
—	國族	小川琢治	華州([現]陝西省華縣)北	『漢書』地理志の京兆鄭縣	④⑤⑥
—	國族	顧實	[漢・晉]京兆鄭縣([現]陝西省華縣)	郭璞説を是とする。卷四、五、六はすべて「南鄭に入る」で終わっている	④⑤⑥
—	國族	常征		顧實・小川説を是とする	④⑤⑥
—	國族	王貽樑	[現](陝西省)鳳翔縣附近	西周金文の奠(鄭)と同地	④⑤⑥
—	國族	丁謙	一名西鄭。[民國]陝西同州府([現]陝西省大荔縣)		④⑤⑥
弁山	山丘	郭璞	弁茲山。([現]甘肅省天水縣)	日の入る所	③
—	山丘	陳逢衡	崦嵫。([現]甘肅省天水縣)	『太平御覽』六七二引の崦嵫。甘肅秦州の西、鞏昌府の東にある崦嵫山ではない	③
—	山丘	丁謙	[民國]阿馬那司山。地中海の東北の濱にある。	阿馬那司は急讀音すると弁茲	③
—	山丘	葉浩吾	[民國]恆山。波斯(ペルシア)西境西。		③
—	山丘	顧實	[民國]厄耳布爾士山脈(Elburz Mts. Эльбурс' 山脈)の最高峰。第希蘭(テヘラン)の西北		③
—	山丘	張公量	[民國]天山南路の一支脈		③
—	山丘	高夷吾	[民國]崦嵫([現]甘肅省天水縣)	『亞速(アツ?)志』の鐵球山門	③
—	山丘	岑仲勉	[現]烏拉(カスピ)山脈の一峰		③
—	山丘	王范之		『括地志』、『西河舊事』にみえる天山(白山)と言う説があるが確定しがたい	③
涇水	河川	陳逢衡	涇水の涇		⑤
—	河川	王貽樑	雙洎河。[清]涇川縣([現]河南省尉氏縣涇川鎮)	穆王時には許の郊に在り	⑤
洛水	河川	丁謙	洛水	[民國](河南省)澠池縣西北に發し、東流して鞏縣([現]河南省鞏縣)に至って黄河に入る	④⑤
—	河川	顧實	洛水	[民國]陝西西安府雒南縣([現]陝西省雒南縣)冢嶺山に發し、[民國]河南河南府鞏縣([現]河南省鞏縣)の東北に至って黄河に入る	④⑤
泃水	河川	小川琢治	昌寧池([現]甘肅省と内蒙古自治区の交)に北流し、永昌の西を流れる川。([現]甘肅省)	弱水と同じ	②
—	河川	郭璞		崑崙山の西北隅から出て東流する。音は詳	②
—	河川	檀萃	泃水(本傳の黒水)	『山海經』による	②
—	河川	陳逢衡	泃水、養水	檀萃の『山海經』(西山經)泃水=黒水説を非とする。『淮南子』(地形訓)注には養水に作る	②
—	河川	呂吳調陽	[清]伊犁(イ)水。([現]新疆維吾爾自治區)		②
—	河川	丁謙	[民國]棍維(フガ)河。([イタ]ス川源流)		②

—	河川	劉師培	[民國]印度(インダス)河	洋と印は音が近い	②
—	河川	顧實	喀什噶爾(カシュガル)河。[民國]新疆省([現]新疆維吾爾自治區)疏勒府	上流は烏蘭烏蘇河、瑪爾堪蘇河	②
—	河川	張星娘	[民國]帕米爾(パミール)高原に在り([現]新疆維吾爾自治區の西)		②
—	河川	高夷吾	阿庫斯(アクス)河。[民國]阿母(アム)河の北源		②
—	河川	岑仲勉	澤普勒善(サ'フラシヤン)河。[現]葉爾羌(ヤルカント')河西源		②
—	河川	衛挺生		赤河を源とする	②
—	河川	衛挺生	支源は今の巴爾塘(Bartang)河		②
—	河川	常征	長寧河。([現]青海省)西寧市境		②
—	河川	畢沅	[清]甘肅に在り	(畢沅説は『山海經新校正』西山經)	②
—	河川	高誘	[漢]隴西郡氐道縣の東を経て武都郡に至る([現]甘肅省東南部)	『淮南子』地形訓注(養水)	②
—	河川	王貽樑	[現]甘肅省西部、酒泉(市)附近。		②
皇天子之山	山丘	小川琢治	泰澤・中帝都之山。[現]汗圖噶爾(阿爾布斯)	『山海經』北山經	④
—	山丘	顧實	河水之北阿の北岸(河之水北阿を参照)	顧實が考定した最初の黄河故道の北岸	④
—	山丘	衛挺生	燕然之山		④
—	山丘	王貽樑		顧實説を是とする	④
相其	山丘	檀萃	相丘	其は丘の誤り	⑤
—	山丘	陳逢衡	相丘		⑤
—	湖澤	呂吳調陽	博浪澤		⑤
—	地名	丁謙	相。相州([民國]滄德府城)([現]河南省安陽市)	河寬甲の遷都地	⑤
—	地名	衛挺生	相。安陽([現]河南省安陽市)		⑤
—	地名	王貽樑	相	殷都の相は河南省内黃縣東南であるが、距離が遠すぎる	⑤
禺知	國族	郭璞		焉居とともに國名とする	①
—	地名	呂吳調陽	雲中宮。[清]歸化城([現]內蒙古自治區歸綏縣か)西南		①
—	山丘	丁謙	[民國]多倫達壩(七嶺)([現]內蒙古自治區)		①
—	國族	小川琢治	焉居地方の禺知氏。[漢]西河郡觥是縣([現]山西省或いは陝西省)。黄河南曲兩岸に集落散在	『漢書』地理志による(觥是の音轉)。「焉居」参照	①
—	地名	顧實	[民國]山西省朔平府平魯縣([現]山西省朔州市平魯區)一帶、或いは平魯縣の井坪の中		①
—	國族	岑仲勉	[漢]焉耆([現]甘肅省焉耆縣)。「焉居・禺知之平」は涼州・甘州([現]甘肅省武威縣・張掖市)の平野		①
—	地名	王范之	(「焉居・禺知之平」)は[現]山西省雁門山西北一帶		①
—	國族	常征	月氏(烏氏・虞氏)。([現]甘肅省)西隴山(隴阪)北麓の祖厲河流域	岑仲勉に従い國族とするが居地は別	①
—	國族	錢伯泉	月氏。中原の北・犬戎の西		①
—	國族	衛挺生		小川説を是とする	①
—	……	靳生禾	平魯([現]山西省朔州市平魯區)一帶		①
—	國族	王貽樑	[現]山西省朔州市平魯區井坪鎮一帶		①
胡氏	國族	檀萃		閼氏・胡氏は二國の名。	③
—	國族	衛挺生	Khorezm(ホラスム)の部落(部族)。アム河下流		③
—	國族	錢伯泉	壑市	『山海經』海内西經の壑布(マア市)國か	③
—			「閼氏胡氏」参照		
范宮	宮臺	檀萃	軍丘の後		⑤
—	宮臺	陳逢衡	離宮の別名。[漢]東郡范縣[清]山東曹州府范縣([現]山東省范縣)	范は春秋時の晉の大夫士會の邑	⑤
—	宮臺	金蓉鏡		『戰國策』の「梁王魏嬰觸諸侯于范侍」の范侍は范宮の諺	⑤
—	宮臺	王貽樑	圃田の北	地望不明	⑤
萃澤	湖澤	檀萃	蓬澤([現]蓬池)。[清]開封府([現]河南省開封市)城東北		⑤
—	湖澤	丁謙	王澤・董澤・晉興澤のいずれか。安邑([現]山東省安邑縣)の近く		⑤
—	地名	洪頤煊		『今本竹書紀年』穆王十四年の「蒐于萃澤」にあたるとする	⑤
茂苑	地名				②

茅尺	地名	郭璞		地名	⑥
—	國族	陳逢衡		茅尺は茅氏の譌	⑥
—	地名	呂吳調陽	[清]林縣([現]河南省林縣)		⑥
—	地名	丁謙	[民國]平陸縣([現]山西省平陸縣)東茅津鎮		⑥
—	地名	王貽樑		今地未明	⑥
苦山	山丘	劉師培	[民國]鹹(アラル)海以西、波斯國(ペルシア)西境	下の黃鼠之山とともに鹹(アラル)海の西にある	②
—	山丘	洪頤煊	苦山。帝臺に近し	『山海經』中山經の苦山(帝臺に近い)。『晉書』束皙傳引『穆天子傳』の帝臺か	②
—	山丘	陳逢衡		苦菜が命名の由來	②
—	山丘	丁謙	[民國]斜拉哈斯城西		②
—	山丘	顧實	馬什特(Meshed、マシュハド)。[現]波斯(ペルシア)東北境	或いは苦山は呼羅珊(Khorashan、ホラサーン)の對音であるともいう	②
—	山丘	衛挺生	[現]kara Tyubc嶺。積累富善(ザラフシャン)山系の大道東西の山(東:高さ1500米、西:高さ2200米)。(タジキスタン・ウズベキスタン)	撒馬爾干(Samarkand、サマルカント)一帯	②
—	山丘	小川琢治	([現]甘肅省から新疆維吾爾自治區にかけて)	黃鼠之山とともに、安西附近から天山の東端の間に位置すると推定	②
軍丘	地名	檀萃	大河の北		⑤
—	地名	陳逢衡		檀萃説を非とする	⑤
—	地名	呂吳調陽	介丘		⑤
—	地名	丁謙		地考うる無し	⑤
—	地名	衛挺生		圃田藪上の丘	⑤
—	地名	王貽樑	圃田の北	具體不明	⑤
重緄氏	國族	洪頤煊	重黎		④
—	國族	陳逢衡		姓氏なり	④
—	國族	翟云升	重黎氏		④
—	國族	呂吳調陽	[清]安阜城([現]新疆維吾爾自治區精河縣)		④
—	國族	丁謙	[民國]俄(ロシア)塔什干(タシュケント)省・費爾干(フェルガナ)省		④
—	國族	顧實	[民國]葉爾羌(ヤルカント)河と喀什噶爾(カシュガル)河の合流點。([現]新疆維吾爾自治區)	新疆烏什の南。寶石名を以て名づく。重黎の誤りか	④
—	國族	顧頡剛		同一流域に赤烏氏と南北に分居	④
—	國族	趙儷生	俄(ロシア)費爾干(フェルガナ)省	錫爾(シル)河の上流	④
—	國族	錢伯泉	([現]甘肅省)敦煌(市)一帯		④
—	國族	小川琢治	濁緄	往事の重緄と異なる	④
重璧之臺	宮臺	陳逢衡	[宋]河南道濮州雷澤縣([現]山東省濮縣東南)	『太平寰宇記』による	⑥
—	宮臺	丁謙	范宮の西		⑥
—	宮臺	王貽樑		地不明	⑥
邢侯	國族	郭璞	[晉]邢は廣平郡襄國縣([現]河北省邢臺市の西南)		②⑥
—	國族	陳逢衡	[清]直隸順德府邢臺縣([現]河北省正定縣の南二百五十里)	襄國は漢では趙國に、晉では廣平郡に屬した。古代の邢國の地(郭注の説明)	②⑥
—	國族	王貽樑	[現]河北省邢臺縣([現]邢臺市)、或いは河南省濶縣附近	并利とは別。姬姓で周公の後裔	②⑥
韋	國族	檀萃	盛國附近		⑥
—	國族	陳逢衡	冢韋氏の國。[清]大名府滑縣([現]河南省滑縣)東南五十里	河・濟の間	⑥
—	國族	劉師培	衛の冢韋の地([現]河南省滑縣)	周に韋邦はない。韋は即ち衛	⑥
—	國族	丁謙	葉城鎮。[民國]滑縣([現]河南省滑縣)南	冢韋國	⑥
—	國族	王貽樑	河(水)・濟(水)の之間	考明し難し	⑥
10畫					
割閭氏	國族	呂吳調陽	[清]喀什河南岸の特穆爾圖嶺北		②
—	國族	丁謙	[民國]達爾瓦斯(Darwaz)部 ([現]タジキスタン)	玉山(北行)から英吉沙爾(イェンギサル、西行)・格茲山・小喀喇庫里湖・格里塔嶺・魯善(ルジャン)部・達爾瓦斯部に至る	②
—	國族	小川琢治	肅州(酒泉市)以西、嘉峪關の北側、黒山の邊り。([現]甘肅省)		②

—	國族	顧實	[民國] 帕米爾 (パミール) 西の達爾瓦茲 (Darwaz) ([現] タジキスタン)		②
—	國族	岑仲勉	[現] 阿賴伊 (Alai、アライ) ([現] キルギス)	喀什噶爾 (カシュガル) 附近より阿賴伊 (Alai) の境内に入り、帖列克達坂 (Terek Pass) を經て北に出る	②
—	國族	錢伯泉	[現] (新疆維吾爾自治區) 伊犁 (イリ)	伊犁 (イリ) の別の音譯	②
—	國族	衛挺生	[現] (新疆維吾爾自治區) 英吉沙爾 (エンキサル) 縣及び疏附 (シュフー) 縣の境。		②
—	國族	常征	虛連氏	匈奴國家の王族虛連氏。羌人の一支	②
圃鄭	湖澤	檀萃	圃田。鄭州城 ([現] 河南省鄭州市) 東北十五里・中牟	春秋時の原圃	⑤
—	湖澤	丁謙	圃田澤。中牟 [民國] 鄭州 ([現] 河南省鄭州市) 東北		⑤
—	湖澤	王貽樑	圃田。中牟縣 ([現] 河南省鄭州市東北) 西北七里	今は平地	⑤
容口氏	國族	檀萃など	容成氏	『太平御覽』 六百十八による	②
—	國族	洪頤煊	容成氏	『路史』 前紀五の引用による。庸と容は古くは通用する	②
—	國族	陳逢衡	容成氏、庸成氏。遂人氏の末裔		②
—	國族	小川琢治	重雍氏	卷四の重雍氏之阿の重雍。容口は重雍の顛倒。	②
—	國族	顧實	容成氏	上古の帝王の胤裔 (『莊子』 胠篋篇に容成氏は伏羲氏の前に在りとある)	②
—	國族	錢伯泉	[現] 新疆維吾爾自治區 葉城縣の西南		②
—	國族	王貽樑		容口氏が容成氏であるかは断定できない	②
桑中	……	郭璞		桑林の中	⑤
—	地名	檀萃	桑林 (衛地) の中		⑤
—	地名	郝懿行	[漢] 常山郡桑中縣 [清] 直隸正定府平山縣 ([現] 河北省平山縣) 東南	『漢書』 地理志	⑤
—	……	陳逢衡		桑野の中。『詩經』 鄘風の桑中ではない	⑤
—	……	丁謙		桑野の中。『詩經』 衛 (マ) 風の桑中ではない	⑤
—	……	王貽樑		檀萃・陳逢衡説を是とする	⑤
桑野	地名	檀萃		地名	⑤
—	地名	丁謙	范宮の地。[民國] 鄭州 ([現] 河南省鄭州市) 南		⑤
—	地名	衛挺生	[清] 洺川縣 ([現] 河南省尉氏縣洺川鎮) 西北		⑤
—	地名	王貽樑	[清] 洺川縣 ([現] 河南省尉氏縣洺川鎮) 西北		⑤
殷	國族			注無し	②
洹水	河川	郭璞	洹津。[晉] 河東河北縣 ([現] 山西省河北縣)		⑤
—	河川	陳逢衡	洹津。[清] 山西解州芮城縣治 ([現] 山西省芮城縣) 東北		⑤
—	河川	郭璞	洹津。[晉] 河東河北縣 ([現] 山西省河北縣)		⑤
—	河川	丁謙	[民國] 洺縣の地		⑤
—	河川	王貽樑	山西芮縣を發し、([現] 山西省) 芮城縣境を經て河に入る		⑤
流沙	地名	顧實	哈密 ([現] 新疆維吾爾自治區哈密市) 東南の大沙海		④
珠余氏	國族	小川琢治	壽余	卷三の壽余と通ず。禹余參照	④
—	國族	顧實	[民國] 青海 (省) 大雪山の西	膜畫が封ぜられた所	④
—	國族	王貽樑	昆侖 ([現] 祁連山) 北七百里		④
—	國族	劉師培	[民國] 青海河源。 ([現] 青海省)		④
珠澤	湖澤	郭璞		眞珠が採れるから珠澤と命名	②④
—	湖澤	劉師培	馬帕木達賴池。[民國] 阿里 (アリ) 附近。 ([現] チベット自治區)	佛典の阿耨達池	②④
—	湖澤	丁謙	伊斯庫里泊。[民國] 和闐 ([現] 新疆維吾爾自治區和田縣) の西北百餘里。	『山海經』 では稷澤に作る	②④
—	湖澤	葉浩吾	[民國] 拜噶爾河が注ぐ哈喇淖爾。 ([現] 甘肅省)		②④
—	湖澤	顧實	[民國] 和闐 (ホータン) ([現] 新疆維吾爾自治區和田縣) の玉璫哈什河と哈喇哈什河が合流する所。	今の回 (ウイグル) 語では、玉璫は白、哈喇は黒、哈什は玉	②④
—	湖澤	高夷吾	[民國] 思納湖		②④
—	湖澤	岑仲勉	[現] 哈喇哈什河の極南端にある沼澤。 ([現] 新疆維吾爾自治區)	ここは産玉の山に近い	②④

—	湖澤	常征		後文の械水の水源地。細泉が地を出る際、水泡が玉を連ねるようなので、珠澤と稱する	②④
—	湖澤	衛挺生	巴格思海子(海拔5200米)	この澤から源を發する玉河に、眞珠に似た形の玉石が多いことから、珠澤と命名	②④
珠澤	湖澤	劉師培	西藏(チベット)		②④
珠澤之藪	地名	王貽樑		この藪には蘆葦の類の植物がくまなく生えており(本文の「爰有 菑葦莞蒲…」)、鹽碱(アルカリ)性の池沼で、いまの甘肅・新疆など西北地區内に多く見られる	②④
留祈	地名	丁謙	范宮の東		⑤
—	地名	王貽樑		丁謙説を是とする	⑤
留昆	國族	檀萃		西戎の國は多く昆を名とす	⑤
—	國族	陳逢衡	留子國	『詩經』の留子國。鄭圃から遠くない	⑤
—	國族	丁謙		其の地考うる無し	⑤
—	國族	小川琢治	留骨之邦		⑤
留骨之邦	國名	檀萃		骨は胥字の誤りで、待の意	②
—	國名	洪頤煊		骨は胥字の誤りで、待の意	②
—	國名	陳逢衡		軍士の埋骨を行ったことからの命名	②
—	國名	小川琢治	今の肅州([現]甘肅省酒泉市)・張掖(市)に相當する	卷五の留昆の異字とする	②
—	國名	顧實		留胥。留胥は留待の意	②
—	國名	王貽樑		骨は胥字の誤り	②
陵翟	國族	郭璞		隗姓國	⑤
—	國族	檀萃		『左傳』の叔隗・季隗	⑤
—	國族	洪頤煊	陵。[宋]馮翊([現]陝西省大荔縣)	『廣韻』の「陵、亭名」による	⑤
—	國族	翟云升	陵子	『路史』六國名記	⑤
—	國族	常征	允翟	陵翟は允翟の古字	⑤
—	國族	丁謙		地亦未詳	⑤
—	國族	王貽樑	畢國。([現]陝西省咸陽市附近)		⑤
馬主	山丘	郭璞		未詳	⑥
—	山丘	檀萃	馬主之丘	深上で馬災を禳った所	⑥
—	山丘	陳逢衡	馬丘	主は丘の誤。深の上で馬に飲ませた所	⑥
—	山丘	郝懿行	馬丘	主は丘の誤	⑥
—	山丘	王貽樑		陳逢衡・郝懿行説を參すべしとする	⑥
骨飡氏	地名	陳逢衡	諸飡	『路史』國名紀による	④
—	國族	顧實	浩罕(Khokand) ([現]烏茲別克(ウズベキスタン)東部)	骨飡氏は浩罕の對音	④
—	國族	翟云升		『路史』の諸飡は人名、國名の骨飡とは同じではない	④
—	國族	丁謙	基大普城。撒馬兒罕(サマルカント)城の南の山谷間。([現]烏茲別克(ウズベキスタン)中部)		④
—	國族	常征	珠余氏の隣族、吉爾吉斯(キルギス)	堅昆、結骨	④
—	地名	岑仲勉	浩罕(Khokand)。([現]烏茲別克(ウズベキスタン)東部)	顧實説に従う	④
—	國族	衛挺生	浩罕(Khokand)。([現]烏茲別克(ウズベキスタン)東部)		④
—	國族	王貽樑		骨は胥の譌。骨飡と蘇谷は同じ。具體定め難し	④
11畫					
啓室	地名	郭璞	太室之丘、崇高山。([現]河南省登封縣の北)		⑤
—	地名	檀萃	嵩山の太室・少室。([現]河南省登封縣の北)		⑤
—	地名	洪頤煊	磻臺。晉の墟([現]山西省太原市)	『藝文類聚』六十二に引く『歸藏』による	⑤
—	地名	陳逢衡		郭璞・檀萃・洪頤煊説を非とする	⑤
—	地名	丁謙	[民國]山西省安邑縣		⑤
—	地名	常征	豫東の夏邑。([現]河南省商邱市)	啓の初都	⑤
—	地名	衛挺生	嵩山の太室之丘。([現]河南省登封縣の北)		⑤

—	地名	王貽樑		衛挺生説を是とする	⑤
採石之山	山丘	陳逢衡	畫石山(一名省崑山)。[清]甘肅寧夏府寶豐縣([現]寧夏回族自治区寶豐鎮)		④
—	山丘	呂吳調陽	哈什河の源の阿爾癸圖山。([現]新疆維吾爾自治區)		④
—	山丘	丁謙	巴達克	黄河の北に在るべき。馬哥『遊記』による	④
—	山丘	顧實	赤沙山。[民國]新疆([現]新疆維吾爾自治區)阿克蘇(アクス)の北	『一統志』の哈喇裕勒衰山	④
—	山丘	衛挺生	帶山	『山海經』北山經	④
曹奴	國名	丁謙	[民國]棍雜(フナ)城。小帕米爾(小パミール)より南に轉じ、乾竺特部に至る所([現]カシメル)	(編者補：上の洋水の項に見える説)	②
—	國名	張星娘	[民國]帕米爾高原(パミール高原)	(編者補：上の洋水の項に見える説)	②
—	國名	顧實	[民國]([現]新疆維吾爾自治區)疏勒(カシュガル)	曹奴と疏勒は普通、『漢書』西域伝の疏勒國は新疆疏勒府の疏勒縣に治しており、喀什噶爾河(カシュガル河)上にある	②
—	國名	衛挺生	[現]羅善嶺(Roshah Mt.)北の薩雷茲帕(Sarez Pamir)附近。([現]キルギスタン)		②
—	國名	王貽樑		未詳	②
曹侯	國族	郭璞	([現]山東省定陶縣)		⑥
—	國族	翟云升	[晉]濟陰郡定陶([現]山東省定陶縣)		⑥
—	國族	王貽樑	陶丘。([現]山東省定陶縣)		⑥
—	國族	王貽樑	周武王の弟叔振鐸が始封された國。([現]山東省定陶縣)		
穢水	河川	洪頤煊	流水	古代の流字	②
—	河川	陳逢衡		于闐(ホーク)の玉河の類	②
—	河川	丁謙	[民國]伊斯庫里泊に流入する桑珠披・雅爾滿の二水。([現]新疆維吾爾自治區)	(編者補：上の珠澤の項の説明。)	②
—	河川	常征	溇水(弱水)。北流して湟水に注ぐ小水	『山海經』による	②
淑人之丘	山丘			注無し	⑥
焉居	國族	郭璞		禹知とともに國名とする	①
—	地名	檀萃	[漢]焉耆([現]新疆維吾爾自治區吐魯番(トルファン)縣)		①
—	地名	呂吳調陽	雲中宮。[清]歸化城([現]內蒙古自治區歸綏縣)西南		①
—	山丘	丁謙	[民國]多倫達壩(七嶺)。([現]內蒙古自治區)		①
—	地名	顧實	[民國]山西省朔平府平魯縣([現]山西省朔州市平魯區)一帶、或いは平魯縣井坪の中		①
—	國族	岑仲勉	漢代の焉耆。「焉居・禹知之平」は涼州(武威)・甘州(張掖)の平野。([現]甘肅省)		①
—	地名	王范之	(「焉居・禹知之平」は)[現]山西省雁門山西北一帶		①
—	國族	常征	義渠(焉支・焉耆)。西隴山(隴阪)北麓の祖厲河流域。([現]甘肅省)	岑仲勉に従い國族とするが居地は別	①
—	山丘	衛挺生		小川説を是とする	①
—	……	新生禾	平魯縣([現]山西省朔州市平魯區)一帶		①
—	山丘	小川琢治	緣胡山。[漢]雲中郡楨陵縣西北。([現]內蒙古自治區)	『漢書』地理志による。焉居禹知之平は焉居地方の禹知氏の居る處の意	①
—	國族	王貽樑	[現]山西省平魯([現]山西省朔州市平魯區)井坪一帶		①
畢	國族	郭璞	畢國。([現]陝西省長安縣西北)		⑤
—	國族	檀萃	[清]西安府咸陽縣([現]陝西省咸陽市)畢原		⑤
—	國族	洪頤煊	畢國。[現]陝西省長安縣西北		⑤
—	國族	丁謙	[後漢]京兆萬年縣西南十五里[民國]咸陽縣([現]陝西省咸陽市)南境		⑤
—	國族	王貽樑	畢公高が封ぜられた所。[現]陝西省咸陽市西北		⑤
祭	國族	郭璞	祭公の邑		⑤
—	國族	檀萃	祭伯城。[清]開封府([現]河南省開封市)東北十五里		⑤
—	國族	呂吳調陽	汜の西		⑤
—	國族	丁謙	祭城。[晉]汜水縣北境[清]鄭州([現]河南省鄭州市)西北約十五里		⑤
祭父	國族	陳逢衡	祭は畿内の國	『國語』韋昭注による	①②⑤⑥
—	國族	衛挺生		祭は周公旦の後	①②⑤⑥

—	國族	王貽樑	祭は周公の第七子が封ぜられた所		①②⑤⑥
春山	山丘	衛挺生	鍾山。〔現〕パミール高原	『山海經』西次三經による	①②
—	山丘	金蓉鏡	鍾山	春と鍾は同音。	①②
—	山丘	顧實	鍾山	本傳の春山は昆侖の北にあり、『山海經』の昆侖が鍾山の南にあるのと適合。広域の一隅	①②
—	山丘	檀萃	鍾山	『山海經』は鍾に作る。春と同音	①②
—	山丘	陳逢衡	鍾山、または于闐(ホータン)南山。(〔現〕新疆維吾爾自治區)	『山海經』西山經	①②
—	山丘	劉師培	〔民國〕岡底斯(カイラス)山。昆侖の支脈で喜馬拉(ヒマヤ)の最高峰	岡と春は近い音。本傳の縣圃はその側	①②
—	山丘	丁謙	邊春山・鍾山。〔民國〕葱嶺(パミール)の塔曼爾瑪峰(25,300フィート(約7711米))	『山海經』による	①②
—	山丘	小川琢治	鍾山。〔現〕祁連山の南山の一部。(〔現〕甘肅省・青海省の交)	『山海經』西次三經	①②
—	山丘	顧實	春山。〔民國〕帕米爾(Pamir、パミール)	大帕米爾(パミール)は西では興都庫士(ヒンドクァクシュ)に連なっており、上古の時代にはこれらをまとめて春山と名づけた	①②
—	山丘	張公量	鍾山。〔民國〕賀蘭山。(〔現〕寧夏回族自治区)	『山海經』	①②
—	山丘	岑仲勉	〔現〕喀喇崑崙(カラコルム)の高峰である奧斯騰(コトウイン・オーステン)山、K2、8611米。(〔現〕新疆維吾爾自治區・パキスタンの交)	古代人のいう葱嶺(パミール)の範囲内にある	①②
—	山丘	劉師培	西藏(チベット)		①②
—	山丘	常征	鍾山。(〔現〕青海省の)日月山	『山海經』による。青海高原と湟水の境界となる山	①②
—	山丘	王貽樑	春山即ち縣圃。〔現〕祁連山脈中の一山。(甘肅省・青海省の交)	(古代の)昆侖山中の主峰。『山海經』と異なる	①②
—	山丘	顧實	春山。〔民國〕帕米爾(Pamir、パミール)		④
春山之風	地名	顧實	興都庫士(ヒンドクァクシュ)山(〔現〕アフガニスタン)	(編者補：風を蜀、獨、獨山としゴビの西にあるとするが、ヒンドクァクシュとの関連がはっきりしない。北界はバダク山(Badakhshan)の西境から南は阿富汗の首都高附(Kabul)に連なる	②
—	地名	衛挺生		風を蜀の壞字とする顧實説に同意。石匿(Shuguan)の首音は蜀の由來	②
—	地名	常征	青海湖東岸(青海と湟水の分水山)。(〔現〕青海省東北)		②
—	地名	錢伯泉	〔現〕パミール東部、新疆維吾爾自治區塔什庫爾干(タシクルガン)東境	(編者補：赤鳥の居住地の説明)	②
—	地名	王貽樑		風は西の誤り	②
春山之澤	湖澤	陳逢衡	井泉	『呂氏春秋』本味篇に「水之美者、昆侖之井」の高注	②
—	湖澤	丁謙	〔民國〕薩雷庫里湖(〔現〕タジキスタン、サレスコエ湖か)	湖水は西流し、阿母(アム)河の水源となる	②
—	湖澤	顧實	〔民國〕新疆省沙車(葉爾羌、ヤルカント)の大帕米爾(パミール)湖	魏源の喀喇庫爾湖と同じ	②
—	湖澤	高夷吾	〔民國〕愛齊魯湖		②
—	湖澤	衛挺生	〔現〕小帕・大帕・阿爾楚爾(アリチュル)帕の諸湖。(パミール)		②
摩沱	河川	郭璞	〔晉〕雁門郡鹵城縣(〔現〕山西省繁峙縣)		①
—	河川	檀萃	呼沱之水	郭璞説を肯定。『山海經』による	①
—	河川	陳逢衡	〔晉〕鹵城縣〔清〕山西省代州繁峙縣東		①
—	河川	小川琢治	摩沱河の上流。忻州(〔現〕山西省忻縣)の北、代州(〔現〕山西省代縣)の南		①
—	河川	顧實	〔民國〕((河北省)井陘縣西境より)(河北省)平山縣境内に入る		①
—	河川	岑仲勉	涇水の正流。(〔現〕陝西省)		①
—	河川	新生禾	〔現〕山西省と河北省の間	郭璞説を肯定、岑仲勉説を批判	①
—	河川	王貽樑	〔戰國〕番吾・靈壽〔現〕河北省平山縣治附近		①
許	國族	陳逢衡	〔晉〕許昌縣〔清〕河南許州(〔現〕河南省許昌市)	郝懿行・丁謙・張公量・衛挺生説も同じ	⑤
—	國族	王貽樑	〔後漢〕潁川、〔宋〕許州(〔現〕河南許昌市東)		⑤
野王	地名	郭璞	〔晉〕河内縣(〔現〕河南省沁陽市)		⑥
—	地名	陳逢衡	〔清〕河南懷慶府河内縣(〔現〕河南省沁陽市)		⑥

—	地名	郝懿行	[晉]河内郡野王([現]河南省沁陽市)		⑥
—	地名	王貽樞	[現]河南沁陽(市)		⑥
陵衍平陸	地名	顧實	[民國]高加索(コーカサス)山以北([現]チェチェン、北オセチヤ等北カフカス地方)		③
雀梁	地名	檀萃	滎陽の間。([現]河南省滎陽縣)		⑤
—	地名	洪頤煊	黃雀溝。([現]河南省汜水縣)	『水經注』濟水の黃雀溝の注	⑤
—	地名	王貽樞	黃雀溝(別名黃淵)。[現](河南省)鄭州市西北		⑤
—	地名	丁謙	黃雀溝。洛河の東。[民國]汜水縣([現]河南省汜水縣)境	『水經注』濟水の黃雀溝の注	⑤
12畫					
禹余	國名	衛挺生	粟弋國(Soghd, Soughd)、粟特(Sogdiana)。其の地は康居に屬す([現]ウズベキスタン)	『後漢書』西域傳の粟(ママー粟)弋國(Soghd, Soughdの音譯)、『魏書』以降の粟特(ヘルシヤ・ギリシヤ語 Sogdianaの音譯)	③
—	國族	小川琢治	涼州・甘州の街道から程遠くない處。または『漢書』地理志・張掖郡の日勒(或いは日勒に作る)、すなわち澤索。([現]甘肅省)	罽口を壽余とし、卷四の珠余氏とみなす。また古文獻の州靡・壽靡・壽麻・醜塗	③
罽口		郭璞		罽は古代の曠の字	②
—	國族	高夷吾		『山海經』海外南經の壽華之野。	②
富丘	山丘	檀萃	負丘		⑤
—	山丘	洪頤煊	富丘。衛地([現]河南省)	『水經注』濟水に引く『竹書紀年』梁惠成王十六年の文による	⑤
—	山丘	陳逢衡	中牟([現]河南省鄭州市東北)の南の衛邑	『水經注』濟水	⑤
—	山丘	王貽樞		丁謙・衛挺生説は方位が合わない	⑤
寒下	地名	檀萃		地名	①
—	……	陳逢衡		地名ではなく寒下露處。	①
—	地名	赫懿行	谷口寒門。([現]陝西省)	『史記』封禪書に見える(編者補:『漢書』郊祀志上の誤りか(「所謂寒門者谷口也」))	①
—	……	楊雲成(丁謙書附収)		寒は室の西北隅	①
—	……	顧實		水神玄冥を寒といい、神は上に在すから寒下という	①
智	地名	檀萃		國名(智氏)とする。鄰と同じく黄河の側	①
—	地名	顧實	[民國]([現]内蒙古自治区)托克托(トクト)城西。		①
—	國族	衛挺生		禺知を指すとする	①
—	國族	錢伯泉	[現]山西省西南部、黄河邊上	晉の智氏の封地と同じとする	①
—	地名	王貽樞	[現]内蒙古自治区河套(オルトス)托克托(トクト)一帯		①
智氏	國族	檀萃		國名	③
—	國族	陳逢衡		後世の部落(部族)のようなもの。必ずしも國を保ったわけではない	③
—	國族	劉師培	[民國]裏(カスビ)海附近の國名		③
—	國族	丁謙		考察できない	③
—	國族	衛挺生	基發汗國(Khiva Khanate、ヒワフアノ國)。(アム河下流)	高陴(コッパ・コベト)山脈の西北より東歸しているので、必ずここを經由している	③
焚留之山	國族	呂吳調陽	布克達山。[清]惠來堡東		④
—	山丘	小川琢治	不拉山山脈。武威郡武威([現]甘肅省武威縣)鎮番縣の塞外	『漢書』地理志の遼東郡	④
—	山丘	顧實	羸郭爾山。[民國]([現]内蒙古自治区)土謝圖汗左翼中の左旗北	亦是土謝圖汗南端・烏爾圖古勒湖東南の小山。	④
—	山丘	衛挺生	馬鬣山。([現]甘肅省)		④
—	山丘	王貽樞	[現]内蒙烏拉特(ウラト)中後聯合旗より烏拉特(ウラト)前旗に至る一帯に在り		④
盛柏	國族	郭璞	成	國名	⑥
—	國族	檀萃	成、邨。[晉]東平剛父縣邨郷([現]山東省汶上縣)	『左傳』杜預及び『漢書補注』による	⑥
—	國族	丁謙	邨城は[民國]山東(省)汶上縣([現]山東省汶上縣)北二十里		⑥

—	國族	呂吳調陽	成、鄆。〔清〕山東(省)汶上縣(〔現〕山東省汶上縣)北二十里		⑥
—	國族	王貽樑	成、鄆。〔現〕山東(省)范縣東南	西周甲骨文には成に作る	⑥
涪臺	宮臺	檀萃	齊に在り		⑥
—	宮臺	陳逢衡		必ずしも齊地に在らず	⑥
—	宮臺	呂吳調陽	阿澤に在り		⑥
—	宮臺	丁謙	河臺(重璧臺)の別稱	地考うる無し	⑥
—	宮臺	王貽樑	五鹿の近傍	丁謙説を否定。具體未明	⑥
𠄎			15畫「𠄎」参照		
鄧韓氏	國族	劉師培	〔民國〕撒馬爾干(Samarkand、サマルカント)。(〔現〕ウズベキスタン)		②
—	國族	呂吳調陽	〔清〕都爾伯勒津回莊		②
—	國族	丁謙	〔民國〕布哈爾(ブハラ)部。(〔現〕ウズベキスタン)	葱嶺(パミール)の西	②
—	國族	小川琢治	靈喚。安西以西。(〔現〕甘肅省)	『山海經』海内東經による	②
—	國族	顧實	〔民國〕撒馬爾干(Samarkand、サマルカント)		②
—	國族	高夷吾	檐寒		②
—	國族	岑仲勉	〔現〕Cemkend(シムケント)。塔什干(タシケント)の東北		②
—	地名	衛挺生	鄧韓(Chimghan)。〔現〕安集延(アンディジャン)城一帯。(〔現〕ウズベキスタン)	鄧韓はChimghanの對音	②
—	國族	王貽樑	〔現〕(甘肅省)敦煌から(新疆維吾爾自治區)羅布泊(ロプノール)に至る一線上	正確には、科什庫都克と庫木庫都克の附近。庫姆塔格砂漠の北縁すなわち下文の「平行」	②
鉞			14畫「鉞」参照		
陽紆	山丘	呂吳調陽	模爾格嶺		④
—	山丘	沈曾植	〔宋〕橫山・〔元〕六盤。〔民國〕寧夏(自治區)の南・慶陽の北		④
—	山丘	小川琢治	哈拉納林鄂拉(山)。(〔現〕內蒙古自治區)		④
—	山丘	顧實	陰山山脈。〔民國〕(〔現〕內蒙古自治區)烏喇特旗の北。翁金朔龍より達罕德爾の諸山		④
—	山丘	王貽樑	〔現〕陰山山脈。(〔現〕內蒙古自治區)		④
陽紆之山	地名	檀萃	冀州の澤。嘔夷。(〔現〕河北省)	陽紆の説明(『周禮』職方氏による)	①
—	地名	陳逢衡	冀州の澤藪。(〔現〕河北省)	陽紆の説明(『周禮』職方氏による)。檀萃の嘔夷(=滄水)説は否定	①
—	山丘	呂吳調陽	(〔現〕內蒙古自治區)河套の北		①
—	山丘	劉師培	〔晉〕扶風汧縣(〔現〕陝西省隴縣)の西	『爾雅』釋地の郭璞注による	①
—	山丘	丁謙	鄂凌湖の北、馬尼都山。(〔現〕青海省)		①
—	山丘	沈曾植	〔民國〕賀蘭山。(〔現〕寧夏回族自治区・內蒙古自治區の交)		①
—	山丘	小川琢治	陰山及び哈拉納林鄂拉(黒日嶺)。(〔現〕內蒙古自治區)		①
—	山丘	顧實	〔民國〕綏遠省(〔現〕內蒙古自治區)烏喇特旗の河套北岸の諸山の總名	陰山・陽山を含む	①
—	山丘	張公量		小川説を是とする	①
—	山丘	高夷吾	陽山。(〔現〕內蒙古自治區)		①
—	山丘	顧頡剛	大青山。(〔現〕內蒙古自治區)		①
—	地名	岑仲勉	張掖河流域一帯。(〔現〕甘肅省)		①
—	山丘	王范之	陰山附近。(〔現〕內蒙古自治區)	澤の陽紆によって名づける	①
—	山丘	趙儷生	陽山(〔現〕大青山)。(〔現〕內蒙古自治區)	『史記』秦始皇本紀	①
—	地名	錢伯泉	〔現〕(甘肅省)蘭州(市)附近の黄河の邊上	陝西省中部から六盤山(寧夏回族自治区)を越える	①
—	山丘	王貽樑	陰山(陽山・大青山)。(〔現〕內蒙古自治區、河套地區)	小川・顧實・顧頡剛・趙儷生説を是とする	①
陽口	山丘	檀萃	陽山。太行と王儻の間。(〔現〕河南省)		⑤
—	山丘	洪頡煊	黎丘之陽。(〔現〕河南省虞城縣)	『太平御覽』等の引用により補う	⑤
—	山丘	陳逢衡	陽山。臨河縣〔清〕陝西(省)延安府延川縣(〔現〕陝西省延川縣)		⑤
—	山丘	王貽樑	陝西(省)延安府延川縣(〔現〕陝西省延川縣)より東		⑤
陰	山丘	郭璞	雁門山。(〔現〕山西省代縣西北三十五里)	(編者補：『爾雅』釋地「西陰、雁門是也」郭璞注「即雁門山也」)	①
—	山丘	檀萃		雁門山説を否定	①

—	山丘	小川琢治	([現]山西省)朔平([現]山西省朔平市)の西北の井平に通じる峠	險を西兪とする	①
—	山丘	陳逢衡	句注山。[清]山西省代州([現]山西省代縣)西北	句注の岡隴と接するから句注は雁門の稱を兼ねる	①
—	山丘	丁謙	白雅拉山。[民國]西甯([現]青海省西寧市)邊外		①
—	山丘	顧實	雁門山。[民國]山西省代州雁門縣([現]山西省代縣)	險を先兪・西兪とする	①
—	山丘	岑仲勉	六盤山脈。[現](寧夏回族自治区)固原縣南	險を西兪とする	①
—	山丘	常征	隴阪。([現]甘肅省)		①
—	山丘	衛挺生	天門山。平魯縣([現]山西省朔州市平魯區)南40里井坪城北。	小川説を是とする	①
—	山丘	靳生禾	[現]山西省代縣西北	郭璞説を是とする	①
—	山丘	王貽樑	[現]山西省代縣西北	郭璞・顧實・靳生禾説を是とする	①
黃之山	山丘	檀萃	黃山。盼水の河源	(編者補：『山海經』西山經の黃山(陳逢衡の指摘)。現在省區未詳)	①
—	山丘	丁謙	星宿海の北。([現]青海省)		①
—	山丘	顧實	阿爾坦山。[民國]綏遠省([現]内蒙古自治区)鄂爾多斯右翼後旗西北套外	『水道提綱』「黄河が東折する所は阿爾坦山の南」。モンゴル語では黄金色を阿爾坦という	①
—	山丘	陳逢衡	[清]陝西(省)西安府興平縣東南		①
—	山丘	王貽樑	黃山。[現]陰山(陽山)山脈中の一山あるいはその附近。([現]内蒙古自治区)	『山海經』西山經の黃山。套外の阿爾泰山に非ず	①
黃竹	地名	王貽樑		地未詳	⑤
黃城	國族	檀萃	黃。盛國附近		⑥
—	國族	陳逢衡	黃城([清]河南省光州界)か黃城山([清]河南南陽府葉縣の北)のいずれか([現]河南省潢川縣か葉縣)	河、濟の間	⑥
—	國族	丁謙	[春秋]黃城。[漢]外黃縣([民國](河南省)杞縣東南の太原縣)		⑥
—	國族	王貽樑	河(水)・濟(水)の之間	考明し難し	⑥
黃帝之宮	宮臺	金蓉鏡	阿耨達宮		②
—	宮臺	顧實	阿耨達宮。[民國]崑崙山脈(後藏・新疆間)北、阿勒騰塔格嶺の頂上。([現]西藏中部・新疆維吾爾自治區間)	『水經』河水注引『釋氏西域記』による	②
—	山丘	岑仲勉	[現](新疆維吾爾自治區)洛浦縣南にある慕士塔格(Muztagh、ムズターグ、高さ7262米)の類の高い山を指す		②
—	宮臺	衛挺生	[現]Surakwat河右岸山谷間の廣い平原のほとり。K2の西谷平原のほとり		②
黃鼠之山	山丘	劉師培	波斯(ペルシア)西境		②
—	山丘	顧實	波斯(ペルシア)の大撒耳特鹽漠(Great Salt desert、カゲール砂漠)に在り	黃鼠を産することから命名	②
—	山丘	小川琢治	[現]甘肅省から新疆維吾爾自治區にかけて	「苦山」とともに、安西附近から天山の東端の間に位置すると推定	②
—	山丘	衛挺生	古雜爾河ほとりの山		②
黃澤	湖澤	檀萃	[漢]魏郡内黃縣[清]大名府内黃縣([現]河南省内黃縣)		⑤
—	湖澤	陳逢衡	[清]河南彰德府内黃縣([現]河南省内黃縣)西北五里		⑤
—	湖澤	呂吳調陽	滎澤。[春秋]衛の地([現]河南省)		⑤
—	湖澤	丁謙	羨水の淵。[漢]内黃縣([現]河南省内黃縣)	今は湮滅	⑤
—	湖澤	張公量	崇高山の東の大沼。[現]河南(省)登封縣北		⑤
—	湖澤	常征	[現](河南省)民權・商丘・夏邑の一線	黃澤の別名は黃溝、黃池	⑤
—	湖澤	衛挺生	黃城溝。[清]登封縣([現]河南省登封市)	黃城溝の別名は黃池、黃澤	⑤
—	湖澤	王貽樑		張公量・衛挺生説が近し	⑤
黑水	河川	小川琢治	黑河。甘州(張掖)の南から西北に向かって流れ、居延澤に流れ込む。([現]甘肅省から内蒙古自治区にかけて)		②④
—	河川	郭璞		崑崙山の西北隅から出て東南流する	②④
—	河川	劉師培	媯水・縛芻河。[民國]阿母(7M)河(ウスベキスタン・トルクメニスタン)		②④
—	河川	劉師培	[現]阿母(7M)河の上流(パミール高原)		②④
—	河川	顧實	[民國]蔥嶺南河(パミール南河)	古代の黑水は今の葉爾羌(ヤムト)河から東に流れて『水經注』の南河につながっている	②④

—	河川	顧實	澤普勒善(ザフラシヤン)河。〔民國〕新疆省莎車府(〔現〕新疆維吾爾自治區莎車縣)	下流は喇斯庫木(カシュム)河、葉爾羌(ヤルカント)河になる。丹水=密爾岱泉は葉爾羌河西源の澤普勒善河に流入。黒水は塔里木河、洩水と同じ	②④
—	河川	丁謙	〔民國〕葉爾羌(ヤルカント)河、又は澤普勒善(ザフラシヤン)河。(〔現〕新疆維吾爾自治區)	地元民は喀喇烏蘇(カラス)と稱す。喀喇は黒、烏蘇は水	②④
—	河川	葉浩吾	〔民國〕葉爾羌(ヤルカント)河。又は澤普勒善(ザフラシヤン)河。或いは喀什噶爾(カシュガル)河。(〔現〕新疆維吾爾自治區)	丁謙を是とするも、或説も擧げる	②④
—	河川	岑仲勉	〔現〕葉爾羌(ヤルカント)東源の聽雜阿布河(『申報圖』は提士約布河に作る)		②④
—	河川	錢伯泉	葉爾羌(ヤルカント)河。(〔現〕新疆維吾爾自治區)	突厥語・回(ウイグル)語では喀拉蘇と稱し、喀拉は黒、蘇は水の意味	②④
—	河川	王貽樑	〔現〕甘肅省酒泉(市)附近		②④
—	河川	丁謙	支納司河。(〔現〕新疆維吾爾自治區)	支納司河上流の喀喇庫里札河の喀喇の譯言が黒	②④
—	河川	顧頡剛		上文の黒水とは別	②④
—	河川	趙儼生	錫爾(シル)河の上流の納林河。(〔現〕フェルカナ地方)	漢の大宛、唐の鉢汗郡	②④
—	河川	錢伯泉	薰水・洩澤、即ち黒海子。(〔現〕甘肅省)敦煌北		②④
—	河川	王貽樑	居延澤の近處(〔現〕內蒙古自治區カバト周辺)	顧頡剛説の上文の黒水とは別を是とする	②④
黒水之西河	地名	丁謙	漢の依耐國、魏・唐の渴盤陀國。(〔現〕新疆維吾爾自治區)		②④
—	河川	高夷吾	喀喇庫勒(カラクル湖)を出て東流する雅瑞雅爾(ヤヤル)河で、于闐(ホタン)河と合する。(〔現〕新疆維吾爾自治區)	禹貢の雍州にみえる黒水の西河	②④
黒水之西河(阿)	地名	衛挺生	色勒庫勒(サクル)莊。蒲犁城の近く。(〔現〕新疆維吾爾自治區)	河を阿(灣曲部)とする(托布侖河の大灣曲)	②④
黒水之阿	河川	顧實	〔民國〕新疆烏什の南、葉爾羌河(ヤルカント)河が北流して喀什噶爾(カシュガル)河に合流する點。(〔現〕新疆維吾爾自治區)		②④
13畫					
毘晉之谷	地名	丁謙	遮留谷。〔民國〕(〔現〕新疆維吾爾自治區)庫勒爾(コルラ)城東	『水經注』の鐵谷關	④
—	地名	小川琢治	芘晉。賀蘭山脈にある寧夏府(〔現〕寧夏回族自治区銀山市)西の岬	卑耳山(『國語』齊語)・熊差山(『山海經』北山經)・卑移山(『漢書』地理志北地郡)と同じ	④
—	地名	顧實	〔民國〕巴彥鄂博河		④
—	地名	高夷吾	〔民國〕五達谷。薩拉齊(サラ)〔現〕內蒙古自治區土默特右旗西)西		④
—	地名	衛挺生	〔戰國〕高峽	陽紆山の第三谷	④
—	地名	王貽樑	陽紆のやや北	具體不明	④
塗山	山丘	陳逢衡		禹が諸侯を會した所	⑤
—	山丘	丁謙	〔民國〕懷遠縣(〔現〕安徽省懷遠縣)東八里	『一統志』	⑤
—	山丘	王貽樑	浙江(省)會稽・安徽(省)當塗・安徽(省)懷遠・四川(省)巴縣のうち浙江・安徽説が影響がある	未定	⑤
滔水	河川	呂吳調陽	洮頼圖河。(〔現〕內蒙古自治區)		④
—	河川	金蓉鏡	滔土。河内西南の戎州(〔現〕四川省宜賓市か)		④
—	河川	丁謙	〔漢〕媯水。〔現〕阿母(アム)河	『漢書』地理志	④
—	河川	小川琢治	洮頼河(托頼河)。(〔現〕內蒙古自治區)	居延海に注入	④
—	河川	顧實	楚水(Chu)・朱河・吹河・潮河		④
—	河川	岑仲勉	錫爾(シル)河		④
—	河川	常征	郭河。〔現〕(甘肅省)永昌縣の境		④
潯水	河川	呂吳調陽	〔清〕(〔現〕新疆維吾爾自治區)特穆爾圖淖爾(テムルトノール)		③
—	河川	丁謙	〔民國〕尼尼微(ニネフ)の東北、郭馬爾河。(〔現〕イラク、ニナワ郡)		③
—	河川	葉浩吾	〔民國〕阿特力克(アトルク)河。(〔現〕ウズベキスタンからイラン/トルクメニスタン)	庫善(クハラ)の東の山麓に源を發し、西へ流れ、裏(カスピ)海に注ぐ川	③
—	河川	顧實	〔民國〕庫拉(Kura)河。(〔現〕トルコからグルジア)		③
—	河川	張星娘	〔民國〕西爾河(Sir Daria、シル河)。(〔現〕フェルカナ地方)		③

—	河川	衛挺生	[現]ハリフ(Hari Rud、ハル川)。(〔現〕アフガニスタン)	この川は縛喝(ハル)の西南より起り、その西北の黒砂漠中に注いで無くなる	③
—	河川	錢伯泉	(古名)素葉水(〔現〕楚(Chu)河)。(〔現〕カザフスタン)	溥・素葉・楚は同名の異なった漢語音譯	③
—	河川	陳逢衡	吐延川。〔清〕陝西(省)延安府安定縣(〔現〕陝西省安定縣)の北	『元和郡縣志』による	③
—	河川	王貽樑	[現](新疆維吾爾自治區)准葛爾(ジュンガール)盆地南部	今のどの川であるかは確定し難い	③
崑山	山丘	陳逢衡	鳥山	『山海經』西山經	③
—	山丘	丁謙	馬西亞司山。尼尼微(ニネウ)。(〔現〕イラン)北	圖は亞爾熱羅什山とする	③
—	山丘	顧實	[民國]アララ特山(Ararat、アララト山)。ロシアの高加索(コーカサス)南部。阿爾美尼亞(Armenia、アルメニア)高原の一部。	ペルシア人は諾亞(ノア)山と言い、ノアが大洪水を避けた所であるとする。かつて噴火山で、溫暖の意味から崑山と稱する	③
—	山丘	高夷吾	[民國]司措勿羅力の麻熱嘎山		③
—	山丘	岑仲勉		曠原の附近にある	③
—	山丘	衛挺生	[民國]木爾哈布水(Mughab、ムカブ川)西南、庫什喀(Kushka、クシュカ)西北の山。(〔現〕アフガニスタン)	ここより木爾哈布水(Mughab、ムカブ川)に沿って北へ行けば達木鹿の「樂園」である	③
—	山丘	王貽樑	[現]新疆維吾爾自治區天山山脈北側で准葛爾(ジュンガール)盆地南縁の一山	曠原からわずかに、二日の距離	③
湟谷樂都	地名	郭璞		柏夭の別州邑(「河宗氏之所遊居」に對する注)	①
—	地名	陳逢衡	湟谷水。〔清〕甘肅省鞏昌府華川水の西河(〔現〕甘肅省通渭縣から甘谷縣)	『一統志』による。『水經注』の湟谷水を引く	①
—	地名	丁謙	湟谷と樂都は別の地。どちらも黄河の水源の南。(〔現〕青海省)	黄河の重源は[民國]西甯府西南の境、巴顏喀喇(バヤンカ)山東麓の南(現青海省)に發し、その地は星宿海の西三百里	①
—	地名	顧實	維都谷、落都谷、樂都城。[民國]甘肅省西甯府碾伯縣治(〔現〕青海省樂都縣)	『後漢書』郡國志・『漢書』趙充國傳・『水經注』河水による。湟谷と樂都はもと一地	①
—	地名	沈曾植	[民國]甘州(〔現〕甘肅省張掖市)・涼州(〔現〕甘肅省武威縣)の南境か		①
—	地名	張公量	[民國]甘肅省西甯府(〔現〕青海省西寧市)	畢元の湟水=樂都水説に従う	①
—	地名	高夷吾	[後涼]樂都郡[元]樂州[民國]碾伯縣(〔現〕青海省樂都縣)		①
—	地名	錢伯泉	[現]青海省西寧市一帶。	上古には羌人の居住した地方	①
—	地名	衛挺生	[現]寧夏回族自治区銀川市の靈武・中衛縣一帶	行程から考えると青海省樂都縣ではない	①
—	地名	王貽樑	烏加河(舊黄河)河畔。〔現〕(内蒙古自治區)河套西端		①
煮口	地名	檀萃	煮棗。〔漢〕濟陰宛句〔清〕信都縣(〔現〕山東省荷澤縣)	『史記』の徐廣注	⑤
—	地名	呂吳調陽	煮棗		⑤
—	地名	陳逢衡		煮棗、即ち宛句(〔清〕山東曹州府荷澤縣の南)では方角が合わず	⑤
當水	河川	洪頤煊		雷水に改める	①
—	河川	呂吳調陽	[清]武州の南(〔現〕山西省左雲縣)	常水に改める	①
—	河川	丁謙	湟水。(〔現〕青海省)	卷四より雷水と改める。地望記さず	①
—	河川	小川琢治	桑乾河。(〔現〕山西省)		①
—	河川	顧實	恆水(沙河・滹水)。(〔現〕河北省)、山西・直隸の沙河と唐河、下流では豬龍河	當・常・恆は通用	①
—	河川	常征	隴水(渭水の支流。今名は胡蘆河)上流の西支。成紀水とも。(〔現〕甘肅省)		①
—	河川	衛挺生	[漢]桑乾縣[北魏]桑乾郡[清]朔州馬邑縣(〔現〕山西省朔州市朔城區)の桑乾水	雷水の誤り	①
—	河川	王貽樑		顧實説に近いとする	①
盟門	山丘	郭璞	盟門山。〔晉〕河の北		④
—	山丘	檀萃	孟門山。吉州(〔現〕山西省臨汾市吉縣)七十里	『一統志』の孟門山	④
—	山丘	金蓉鏡	孟門山。慈州文成縣〔清〕平陽吉州(〔現〕山西省臨汾市吉縣)		④
—	地名	呂吳調陽	[清]天井關。(〔現〕山西省晉城市)		④
—	山丘	金蓉鏡	孟門山。〔清〕平陽吉州(〔現〕山西省臨汾市吉縣)		④
—	地名	丁謙	孟津。[民國](河南省)孟縣(〔現〕河南省孟縣)西の河陽堡		④

—	山丘	顧實	孟門山。〔民國〕山西(省)吉州〔現〕山西省臨汾市吉縣	『山海經』北山經の孟門之山	④
—	山丘	張公量	孟門		④
—	山丘	王貽樑	孟門山。〔現〕山西(省)臨汾市吉縣と陝西(省)宜川間の黄河邊上・壺口瀑布の北に在り		④
群玉之山	山丘	郭璞	玉山	『山海經』の玉山。西王母の居る所	②④
—	山丘	劉師培	帕米爾(ハミル)。阿母(74)河東北。	唐の波米羅	②④
—	山丘	丁謙	〔民國〕密爾岱山。(〔現〕新疆維吾爾自治區)葉爾羌(ヤルカント)の西南、庫克雅爾池・克里克二莊の西	『山海經』は崋山に作る。『漢書』の西夜・子合國(玉石を産す)	②④
—	山丘	小川琢治	肅州以西を過ぎない〔現〕甘肅省酒泉市以東)		②④
—	山丘	顧實	別名は米爾臺塔班。〔民國〕〔現〕新疆維吾爾自治區)葉爾羌(ヤルカント)及びその西南の密爾岱山にある	維吾爾(ウイグル)語では山を塔班・達坂という。『山海經』の崋山	②④
—	山丘	張公量	玉山	『山海經』の玉山	②④
—	山丘	顧頌剛	祁連山(脈)。(〔現〕甘肅省・青海省の交)		②④
—	山丘	王貽樑	祁連山脈中、或いは合黎山・龍首山に至る一帯。(〔現〕甘肅省・青海省の交)		②④
—	山	劉師培	帕米爾(ハミル)		②④
—	山丘	衛挺生	玉山。(〔現〕新疆維吾爾自治區内)密爾岱山とその周辺の玉を算出する山の総稱		②④
—	山丘	岑仲勉	密爾岱山。(〔現〕新疆維吾爾自治區内)	丁謙説・顧實説に従う	②④
—	山丘	陳逢衡	嘉峪山。〔明〕肅州衛〔現〕甘肅省酒泉市)西七十里		②④
群玉田山	山丘	陳逢衡		田字は之字の誤り	②
—	山丘	小川琢治	群玉馬山。禹知の部落は〔現〕(甘肅省)高臺縣附近	田山二字は禹一字の誤り	②
虞	國族	郭璞	〔晉〕大陽縣〔現〕山西省平陸縣)		⑥
—	國族	陳逢衡	〔晉〕河東郡太陽縣〔清〕山西(省)解州平陸縣〔現〕山西省平陸縣)東		⑥
—	國族	郝懿行	〔晉〕河東郡太陽縣〔現〕山西省平陸縣)	周武王が大伯の後を封じた所	⑥
—	國族	丁謙	虞城。〔民國〕虞鄉縣〔現〕山西省虞鄉縣)南	輪橋東北の虞原上の虞城	⑥
—	國族	王貽樑	〔現〕山西省平陸縣東北	周文王が古公亶父の子虞仲の後を封じた所	⑥
雷水	河川	陳逢衡	涑水。〔宋〕河東道蒲州河東縣〔現〕山西省永濟縣)	涑水は一名雷水	④
—	河川	顧實	〔民國〕永定河。(〔現〕山西省から河北省)	涑水と同じ	④
—	河川	呂吳調陽	如澤水	雷水之平は白登山	④
—	河川	張公量	桑乾河(永定河)。(〔現〕山西省から河北省)		④
—	河川	岑仲勉	涇水の一支。(〔現〕甘肅省)	イソ語で川水をrudという。雷はその音譯	④
—	河川	常征	濫水。〔現〕(甘肅省)渭源縣北	雷・濫は近音	④
雷首	山丘	郭璞	雷首山。〔晉〕河東蒲坂縣〔現〕山西省永濟縣)南		④
—	山丘	檀萃	陽山。〔清〕平陽府蒲州〔現〕山西省永濟縣)東南三十里	伯夷・叔齊が隠れた陽山。『尚書』禹貢の雷首	④
—	山丘	陳逢衡	〔漢・晉〕蒲坂〔清〕山西蒲州府永濟縣〔現〕山西省永濟縣)南		④
—	山丘	呂吳調陽	〔漢〕陰館累頭〔現〕山西省朔州市朔城區東南・代縣西北)		④
—	山丘	丁謙	〔民國〕索爾古山	雷水の上源で犬戎の西南	④
—	山丘	小川琢治	累頭山。朔州〔現〕山西省朔州市朔城區)北十餘軒	雷水の上源。桑乾泉池の側にあり。	④
—	山丘	顧實	洪濤山(累頭山)。〔清〕朔平府馬邑縣〔現〕山西省朔州市朔城區)		④
—	山丘	錢伯泉	〔現〕山西省北部	犬戎の居地	④
—	山丘	王貽樑		小川・顧實説を是とする	④
14畫					
竊			15畫「竊」参照		
濕水	河川	郭璞	〔晉〕濟陰郡濕陰縣〔現〕山東省臨邑縣)		⑥
—	河川	檀萃	〔漢〕東郡濕陰縣〔現〕山東省臨邑縣)西の高唐で河に注ぐ	『漢書』地理志	⑥
—	河川	洪頤煊	濕水	『北堂書鈔』八十二は濕水を濕に作る。濕は古濕字	⑥
—	河川	陳逢衡	〔漢〕平原郡濕陰縣〔清〕山東(省)濟南府臨邑縣〔現〕山東省臨邑縣)		⑥

—	河川	翟云升	濕水。〔漢〕溧陰縣〔晉〕樂陵國溧沃〔〔現〕山東省臨邑縣〕	溧は本字、溧は異文	⑥
—	河川	丁謙	東昌朝城縣〔〔現〕山東省聊城縣〕		⑥
—	河川	王貽樸	溧水・溧川・溧水。〔現〕河南省〔省〕濬縣西南に發し、山東〔省〕范縣を経て濱縣等を過ぐ	山東境内の故河道と今徒駭河とほぼ一致	⑥
溧	河川	陳逢衡	溧水		⑥
溧	湖澤	洪頤煊		溧澤の誤とする	①
—	湖澤	陳逢衡	溧渠・溧溪の類	『水經注』溧水の水源	①
—	湖澤	呂吳調陽	黛山湖	(編者補：内蒙古自治区の山黛湖)	①
—	湖澤	丁謙	札遜泊	(編者補：青海省の托遜池(托素湖)か)	①
—	湖澤	小川琢治	沙陵湖。〔〔現〕〕内蒙古自治区呼和浩特市托克托城	『水經注』による。溧澤・溧澤と同じとする	①
—	湖澤	顧實	山黛湖(黛山湖)。〔〔現〕〕内蒙古自治区	溧澤・溧澤と同じとする。山黛と溧澤は古今の語音の變	①
—	湖澤	衛挺生	善黛湖。沙陵縣〔〔現〕〕内蒙古自治区呼和浩特市托克托縣	小川琢治説・顧實説を是とする。善岱・沙陵とおなじ	①
—	湖澤	高夷吾	沙陵湖。〔〔現〕〕内蒙古自治区呼和浩特市托克托縣		①
—	湖澤	王貽樸	山黛湖が是に近し。〔〔現〕〕内蒙古自治区	溧澤・溧澤と同じとする	①
—	湖澤	檀萃		『山海經』の溧水と同じ	①
—	湖澤	呂吳調陽		卷四の溧澤と同じとする	①
—	湖澤	丁謙	〔民國〕敖羅海池、鄂凌海の東百餘里、黄河が南折する所。〔〔現〕〕青海省		①
—			「溧澤」及び「溧澤」参照		
溧			「溧訊」及び「溧澤」参照		
溧	湖澤	檀萃	圃田二十四浦の一、二		⑤
—	湖澤	陳逢衡	指澤陂。〔清〕河南開封府洧川縣〔〔現〕〕河南省尉氏縣洧川鎮)北二十里		⑤
—	湖澤	呂吳調陽	百尺陂。開封口		⑤
—	湖澤	丁謙	溧澤	地考うる無し	⑤
—	湖澤	衛挺生	指澤陂。〔清〕洧川縣〔〔現〕〕河南省尉氏縣洧川鎮)北二里		⑤
—	湖澤	王貽樸	指澤陂		⑤
榮	河川	丁謙	榮陽〔〔現〕〕河南省鄭州市)の東		⑤
漳	河川	郭璞	〔晉〕〔魏郡〕鄴縣〔〔現〕〕河南省臨漳縣西)		①
—	河川	檀萃	清漳水。〔晉〕鄴縣〔〔現〕〕河南省臨漳縣)西		①
—	河川	陳逢衡	〔清〕河南省漳(マ)德府漳縣〔〔現〕〕河南省臨漳縣)西四十里	鄴縣の説明のみ	①
—	河川	小川琢治	漳水の上流		①
—	河川	顧實	水源は濁漳水。〔民國〕山西省潞安府長子縣〔〔現〕〕山西省長子縣)發鳩山東		①
—	河川	岑仲勉	漳水と非常に近い長水。〔〔現〕〕陝西省)	山西省の漳水と関係なし	①
—	河川	靳生禾	〔〔現〕〕山西省	岑仲勉説を批判	①
—	河川	陳建敏	濁漳(潞水)上流。〔〔現〕〕山西省)長子縣附近		①
—	河川	王貽樸	〔〔現〕〕山西省長治市	顧實説・靳生禾説を是とし、郭璞を非とする	①
瑤	湖澤	小川琢治	〔漢〕蒲類海〔〔現〕〕巴里坤(ハルコル)に接する巴爾庫勒淖爾。〔〔現〕〕〔新疆維吾爾自治區〕鎮西府西北四十餘里	徐松『西域水道記』卷三による	③
—	湖澤	顧實	第希蘭(テハン)南	Daria-i-namak(ハルコル)語で「王の海」の意	③
—	湖澤	衛挺生	〔〔現〕〕縛噶(ハルコル)近郊	昔は存在し、今はない人造池	③
—	湖澤	王貽樸	〔〔現〕〕博斯騰(ホステン)湖。〔〔現〕〕新疆維吾爾自治區和碩(ホシュト)縣の南、庫爾勒(コル)の東北		③
翟	地名	郭璞	隴阪。隴西〔〔現〕〕甘肅省)に在り		④
—	地名	陳逢衡	石堂山。翟道縣〔〔現〕〕陝西省中都縣)西	『太平寰宇記』關西道坊州中都縣石堂山に引く『水經注』による	④
—	地名	呂吳調陽		赤狄潞氏の道	④
—	地名	丁謙	〔清〕(山西省)平定州樂平縣〔〔現〕〕山西省昔陽縣)東五十里の昔陽故城を通る道	春秋の鼓國(子爵、白狄種)の地(都は昔陽〔〔現〕〕山西省昔陽縣)に比定か)	④
—	地名	小川琢治	太行山脈〔〔現〕〕山西・河北・河南三省の交)中の道	翟人が部落間を通行する道	④
—	地名	顧實	〔民國〕山西(省)平定州〔〔現〕〕山西省平定縣)及び潞安府潞安縣〔〔現〕〕山西省長治市)東一帯の地	『左傳』宣公十五年の狄土。一か所に止まらない	④

—	地名	顧頡剛	代道。靈壽(〔現〕河北省靈壽縣)から北行する道	代道は趙の武靈王(惠文王)が開いた	④
—	地名	岑仲勉		郭璞説を是とする	④
—	地名	常征		鳥道(鳥だけ通れる険しい山道)を翟道という	④
—	地名	錢伯泉	陝西・山西・河北の翟人の通道	春秋戰國時代の白狄・赤狄の通道	④
—	地名	衛挺生	澤州(〔現〕山西省晉城市)以北、托城(未詳)以東以南の翟人の大道	翟人の大道をみな翟道という	④
—	地名	王貽樸		顧頡剛説が最も正確	④
鄒	國族	郭璞		鄒は國名	①④
—	國族	檀萃		鄒(鄒ではない)について、『史記』索隱引「晉(書)地道記屬北地」を引く	①④
—	國族	洪頡煊	鄒國は虞・芮の間。(〔現〕陝西省)	(宋・鄭名世)『古今姓氏書辨證』を引く	①④
—	國族	翟云升	鄒は〔現〕陝西省)右扶風	『説文』(六下邑部)に従う	①④
—	國族	劉師培	鄒は〔現〕甘肅省の東境		①④
—	國族	丁謙	鄒人は〔民國〕〔現〕青海省)土爾扈特(トルゴト)西南二旗の境	河宗氏分封の國とする	①④
—	國族	小川琢治	鄒人之邦は〔現〕內蒙古自治區)歸化城附近	漢の雲中郡地方の陰山南麓一帯	①④
—	國族	顧實	鄒國は〔民國〕綏遠省(〔現〕內蒙古自治區)歸化以西の地	南は圖爾根河を跨ぎ西は博托河に際す	①④
—	國族	于省吾	鄒人は馮夷		①④
—	國族	高夷吾	鄒邦は薩拉齊(サチ)(〔現〕內蒙古自治區)土默特右旗)		①④
—	國族	王貽樸	鄒人は〔現〕內蒙古自治區)の黑城・托克托開	于省吾説を是とする	①④
鄒人			「鄒」参照		
鄒邦			「鄒」参照		
祭			11畫「祭」参照		
鉞山	山丘	郭璞	(并)鉞山。〔晉〕常山郡石邑縣(〔現〕河北省鹿泉市)	燕・趙は山脊を鉞と言う	①
—	山丘	洪頡煊	井陘山		①
—	山丘	檀萃	〔漢〕井陘山(〔清〕蒼巖山)。〔漢〕(常山郡)石邑縣〔清〕井陘縣(〔現〕河北省井陘縣)西	『漢書』地理志	①
—	山丘	陳逢衡	〔晉〕常山郡石邑縣〔清〕直隸真定府獲鹿縣治(〔現〕河北省獲鹿縣)南		①
—	山丘	翟云升	井陘山。〔漢〕常山郡(〔現〕河北省)		①
—	山丘	丁謙	井陘山。〔民國〕(河北省)井陘縣(〔現〕河北省井陘縣)北		①
—	山丘	顧實	井陘山。〔清〕直隸正定府井陘縣(〔現〕河北省井陘縣)	石邑は道迂とする	①
—	山丘	小川琢治	(〔現〕山西省)太原(市)から忻州(市)の間、汾水と滹沱河の間に位置する石嶺の峠		①
—	山丘	顧頡剛	〔現〕河北省獲鹿縣	太行山八陘の第五	①
—	山丘	岑仲勉	(古名)沂山〔漢〕鷄頭山。〔現〕陝西省華亭(縣)西北九七里	『史記』秦始皇本紀による	①
—	山丘	靳生禾	井陘山	岑仲勉説を批判	①
—	山丘	王貽樸	井陘山。〔現〕(河北省)井陘縣		①
鉞山之隊	地名	丁謙	太行の西谷。〔民國〕山西平定州(〔現〕山西省平定縣)東		④
—	地名	洪頡煊	陘山之隊	『史記』淮陰侯列傳索隱	④
鉞陘	山丘	郭璞	鉞山の坂		⑥
—	山丘	郝懿行	井陘山。〔漢〕常山郡井陘(〔現〕河北省井陘縣)		⑥
—	山丘	呂吳調陽	仵級堡		⑥
—	山丘	王貽樸	鳥嶺山(一名鉞陘)。〔現〕山西翼城縣東		⑥
15畫					
竊子	國族	陳逢衡	師子	『太平寰宇記』に師子の飼育をよくする師子國有り	③
竊子之澤	湖澤	呂吳調陽	〔清〕〔現〕新疆維吾爾自治區)浮遠城の東北の池		③
—	湖澤	劉師培	裏(カセ)海	西王母の北に在り(西王母之邦をネゲェとする)	③
—	湖澤	丁謙	〔民國〕札瑪拉湖		③

—	湖澤	顧實	[民國]拉獨加(Ladoga、ラドガ)湖或いは倭納加(Onega、オネガ)湖。([現]ロシア)	華爾泰岡(華爾泰丘 Valdai Hills)の北・芬蘭(Finland)に近い所にある。竊子は狸子で拉獨加の拉に近い音	③
—	湖澤	衛挺生	[現]鳴笛築湖(Mingakli Lake)	狸子之澤	③
—	湖澤	王貽樸	[現]新疆維吾爾自治區巴里坤(バルコル)湖		③
朔多	河川	小川琢治	[漢]五原郡莫類縣[現](內蒙古自治區)包頭(市)	『漢書』地理志。黄河の南折する所	④
—	河川	丁謙	滲澤	卷一の滲澤の水が西流して河に入る處	④
—	河川	沈曾植	[民國]包頭([現]內蒙古自治區包頭市)	古代の君子澤の近く	④
—	河川	顧實	[民國]薩拉齊(サチ)の南境。綏遠の包頭([現]內蒙古自治區包頭市)	黄河が折れて南流する所か	④
—	河川	衛挺生	博多。[現](內蒙古自治區)包頭市	河水の南還する所	④
—	河川	王貽樸	[現]內蒙古(自治區)包頭(市)から托克托一帯	河水の南還する所	④
樂池	地名	郭璞		廣樂を奏したので玄池を廣樂池と改名	②⑥
—	湖澤	郭璞	玄池		②⑥
—	湖澤	陳逢衡	河(水)・濟(水)の間、漂水の南	卷二の樂池とは別	②⑥
—	湖澤	金蓉鏡	樂池	(卷二とは)別の一樂池	②⑥
—	湖澤	呂吳調陽	高粱陂		②⑥
—	湖澤	洪頤煊		卷六の樂池とは同名異地とする。	②⑥
—	湖澤	丁謙	重壁之臺南百五十里、[民國]禹州([現]河南省禹縣)の境		②⑥
—	湖澤	王貽樸	樂池	卷二の玄池とは別	②⑥
樂野	地名	顧實		海外西經の大樂之野。下の平衍之中のこと	②
—	地名	檀萃眉批	大樂之野(一名大遺之野、大穆、穆天之野)		②
—	地名	陳逢衡	樂土・樂郊	樂野は下文の平衍之中のこと	②
樂都			「濶谷樂都」參照		
盤石	山丘	檀萃	鼓山。[晉]鄴縣([現]河南省臨漳縣)西	山の頂上は石鼓の形	①
—	地名	陳逢衡	盤石故關。[宋]河東道平定縣東北七十里[清]山西省平定州([現]山西省平定縣)	『太平寰宇記』による	①
—	地名	顧實	盤石故關。[民國]山西省平定州([現]山西省平定縣)	陳逢衡説を引く	①
—	地名	岑仲勉	大佛寺の石佛。邠州([現]陝西省彬縣)火石嘴十五里	盤石を大きい石・堅固な石と解する。『侍行記』三を引く(編者補：清・陶保廉『辛卯侍行記])	①
—	地名	衛挺生	臯落氏の境内	地望不記。臯落の一中心地	①
—	地名	靳生禾	東は石邑、西は盤石故關一帯に至る井陘口地區。([現]河北省石家莊市から山西省平定縣)	下の鉞山の項を參照	①
—	地名	陳建敏	[現]山西省平定縣東北		①
—	地名	王貽樸	故關。[現]山西省平定(縣)		①
穀	國族	檀萃	盛國附近		⑥
—	國族	丁謙	穀邱		⑥
—	國族	陳逢衡	[清]河南府城([現]河南省洛陽市)西北	穀水傍らの國	⑥
—	國族	王貽樸	穀丘。[現]山東(省)東阿縣東南の東阿鎮	『春秋』桓公七年の穀國に非ず	⑥
寘輪	山丘	郭璞	輪坂。[晉]河東大陽縣([現]山西省運城市平陸縣東北)		⑤
—	地名	洪頤煊	顛輪	寘は寘の譌。『左傳』の顛輪	⑤
—	山丘	陳逢衡	顛輪坂。[漢]河東郡大陽縣[清]山西(省)解州平陸縣([現]山西省運城市平陸縣)		⑤
—	地名	丁謙	顛輪、輪橋。[民國]虞鄉縣([現]山西省虞鄉縣)南		⑤
—	地名	衛挺生	[現](山西省)平陸縣茅津渡附近		⑤
—	山丘	王貽樸	[現]山西(省)平陸縣東北		⑤
寘輪之陞	地名	郭璞	輪橋西南の嫌絶	中央に兩道有り	⑤
—	地名	陳逢衡		郭璞説の兩道は『太平御覽』九百五十四に引いて兩に作る	⑤
髡之陞	山丘	呂吳調陽	龍灣山。[清]應州([現]山西省應縣)西南		④
—	山丘	丁謙	[民國]碾伯縣([現]甘肅省樂都縣)南境の山		④
—	山丘	小川琢治	雁門([現]山西省代縣)		④
—	山丘	顧實	句注山。[民國]山西(省)代州([現]山西省代縣)西北二十五里	句注山は代州の西北二十五里に、雁門山は三十五里にある	④
—	山丘	常征		顧實説に従う	④

—	山丘	衛挺生		顧實説に従う	④
—	山丘	王貽樑		小川・顧實説を近しとする	④
黎丘	山丘	檀萃	黎丘、州黎丘。淮の南〔現〕湖北省自忠縣北		⑤
—	山丘	洪頤煊	黎丘之陽〔現〕河南省虞城縣		⑤
—	山丘	陳逢衡	黎丘。〔清〕河南歸德府虞城縣〔現〕河南省虞城縣		⑤
—	山丘	丁謙	〔漢〕黎陽縣〔民國〕濬縣〔現〕河南省濬縣		⑤
—	山丘	王貽樑	〔漢〕黎陽縣〔現〕河南省濬縣東	但し、黎陽と黎丘は地名が異なる	⑤
16畫					
濁絲氏	國族	呂吳調陽	和爾郭斯諸河		④
—	國族	丁謙	屬絲。〔現〕亞查克城	魚豢『魏略』による	④
—	國族	小川琢治		屬絲(『山海經』箋疏引『魏略』)居絲(『山海經』海内東經)に同じ	④
—	國族	顧實	土蘭(Turan)、後の突厥・土耳其。流沙の西	諸絲・居絲・屬絲にも作る	④
—	國族	趙儷生		顧實説に従う	④
—	國族	岑仲勉	浩罕(Khokand)。錫爾(シル)河流域		④
—	國族	常征	疇余・珠余。湟水下游からやや東北	湟水下游から東北に遷り、河西・隴東を経て後に義渠・白狄に融入	④
—	國族	衛挺生	錫爾(シル)河中游の塔什干(タシュクン)以北・蘇聯(ソ連)可薩克斯坦(カフスタン)附近の地	顧實説を是とする	④
滲澤	地名	洪頤煊	滲澤		④
—	地名	顧實	滲澤		④
—	湖澤	王貽樑	滲澤。〔現〕內蒙古(自治區)包頭(市)から托克托一帯	河水の南還する所	④
—			「滲澤」参照		
燕然之山	山丘	檀萃	燕然山。〔漢〕速邪烏(現モンゴル國)	『漢書』匈奴傳による	①
—	山丘	陳逢衡	〔清〕多倫諾爾(トルノール)の界、(〔現〕內蒙古(自治區)歸化城)の北		①
—	山丘	呂吳調陽	〔清〕(〔現〕內蒙古(自治區)河套)の東		①
—	山丘	劉師培	〔民國〕甘肅省境	『漢書』匈奴傳の燕然に非ずとする	①
—	山丘	丁謙	烏藍得什山。〔民國〕札凌湖東北。(〔現〕青海省)		①
—	山丘	小川琢治	(〔現〕內蒙古(自治區)包頭(市)の東、陰山南麓)の諸山。		①
—	山丘	顧實	穆尼烏拉山。〔民國〕烏喇特(ウラト)旗。(〔現〕內蒙古(自治區))	陳逢衡説を否定。陽紆之山の連麓	①
—	山丘	王貽樑	〔現〕內蒙古(自治區)の陰山山脈中の一山		①
燕口之山	山丘	王貽樑		諸校が燕然之山に作るのを是とする	①
積山之邊	山丘	檀萃		邊は複の古字で、幾重にもなった山の意	③
—	山丘	陳逢衡	小積石山	積山は小積石山。邊は尾	③
—	山丘	丁謙	積山。〔民國〕什貝爾昆城の南の山		③
—	地名	顧實	阿拉爾(Aral)海(鹹海)の中	邊は邊の古文	③
—	地名	小川琢治	哈密(ハミ)の東南300軒の一帯。	積山は本傳卷四の蘇谷と同じ場所	③
—	山丘	衛挺生	〔民國〕積累富善嶺Zerafshan Range(ザラフシャン山脈)の西邊	積とZeは同音	③
—	山丘	王貽樑		文獻中の大・小積石山及び本傳卷一の積山とは別の山。邊は邊字	③
積石	山丘	郭璞	〔晉〕金城郡河關縣〔現〕甘肅省臨夏市)南の山名		①
—	山丘	檀萃	河水が出る所。(後漢)隴西郡河關(マア→關)縣〔現〕甘肅省臨夏市)	『後漢書』郡國志による	①
—	山丘	陳逢衡	唐述山(小積石山)。〔漢〕金城郡河關縣〔清〕甘肅省蘭州府河州〔現〕甘肅省臨夏市)西	水經注による。檀萃説を非とする	①
—	山丘	呂吳調陽	積石阜。河套東に在り	『水經注』は誤って單に「積石」とする	①
—	山丘	丁謙	〔民國〕鳴達蘇齊老山。(〔現〕青海省)	河源の北	①
—	山丘	小川琢治		郭璞を非とする。積石とは地形に由來する名	①

—	山丘	顧實	[民國]青海省土爾扈特(トクト)南前旗、黄河の南、阿里克土司の東。	董祐誠説による	①
—	山丘	衛挺生		顧実説を是とする	①
—	山丘	顧頡剛	([現]内蒙古自治区)河套西北の一山	昆侖の東	①
—	山丘	岑仲勉		もとは通名で、砂礫のこと	①
—	山丘	常征	黄河と湟水の間の拉脊山。([現]青海省か)		①
—	山丘	錢伯泉	小積石山。[現]青海湖の東北		①
—	山丘	王貽樑	([現]内蒙古自治区)河套西北の一山	顧頡剛説を是とする	①
積石之南河	河川	檀萃	蒲昌の上流、黄河の岐出する所		①
—	河川	陳逢衡	唐述水。小積石山の下流、大積石から遠い所	積石の項を参照	①
—	河川	丁謙	河源の二支流中の南のほうで、拉瑪陀羅海山より流れ出る。([現]青海省)		①
—	河川	高夷吾	黄河の源流、阿勒坦噶建素齊峰。([現]青海省)		①
—	河川	錢伯泉	湟水。([現]青海省)	枝持も同じ	①
—	河川	王貽樑	今の黄河の主道で、古の黄河(烏加河)の南。([現]内蒙古自治区)		①
縣圃	山丘	郭璞		玄圃とも平圃ともいう	②
—	山丘	陳逢衡	甘肅(省)張掖縣([現]甘肅省張掖市)北の葦山(畢沅説)	『山海經』西山經の槐江之山	②
諸夏	地名			注無し	③
關氏	國族	檀萃		關氏・胡氏は二國の名	③
—	國族	衛挺生	Urgench(ウルク)の部落(部族)。([現]ウズベキスタン)	阿母(アム)河の三角州地帯を根拠地にする。後の玉龍傑赤	③
—	地名	錢伯泉	[現]新疆維吾爾自治区焉耆(カフジャー)	其の東南は白龍堆大沙漠	③
關氏胡氏	國族	陳逢衡		君長の姓氏で國名ではない	③
—	國族	翟云升	關胡氏	『路史』國名記卷七に従う	③
—	國族	顧實	關胡氏。烏拉阿爾泰(ウラルタイ)語系民族		③
—	后妃名	顧頡剛	關氏	二國の名ではなく、匈奴(=胡)單于の後妃(=關氏)の誤傳。	③
—	……	岑仲勉	關胡	關胡は『火教經』(ゾロスター經典)で、主或いは貴族を稱して言う言葉ahuの對音	③
—	國族	王貽樑	關胡氏	關胡氏とするほうが匈奴單于妃とするよりよい	③
霍侯	國族	陳逢衡	霍は[漢]河東郡彘縣[清]山西(省)霍州([現]山西省霍州市)		⑤
—	國族	丁謙	[民國]山西(省)霍州([現]山西省霍州市)	陳逢衡説に近し	⑤
—	國族	王貽樑	霍・霍伯國。山西(省)霍縣([現]山西省霍州市)西南十六里		⑤
17畫					
濩澤	湖澤	郭璞	[晉]平陽濩澤縣([現]山西省陽城市)		⑤
—	湖澤	檀萃	[漢]河東郡濩澤(縣)([現]山西省陽城市)	析城山の西北	⑤
—	湖澤	陳逢衡	[清]山西(省)澤州府陽城縣西([現]山西省陽城市)		⑤
—	湖澤	呂吳調陽	廣成澤	温水を以て名づく	⑤
—	湖澤	丁謙	[民國]澤州陽城縣([現]山西省陽城市)の西南二十里		⑤
—	地名	王貽樑	戰國魏の邑濩澤([現]山西陽城市西偏北)、濩澤水([現]山西陽城市南)、霍澤([現]陽城市西北)のいずれか		⑤
薄山	山丘	檀萃	蒲子山。[現]山西省蒲縣	『山海經』中山經の薄山。薄・蒲は音轉	⑥
—	山丘	陳逢衡	首陽山。[宋]河南道陝州芮城縣([現]河南省芮城縣)の北十里	中華以西の七名山のうちの一つ。『史記』封禪書	⑥
—	山丘	郝懿行	河首襄山。山西省永濟縣([現]山西省永濟市)		⑥
—	山丘	張公量	蒲州山。([現]山西省永濟市)		⑥
—	山丘	丁謙	[唐]陝州芮城縣永樂鎮北([現]陝西省涇陽縣の東)		⑥
—	山丘	王貽樑	中條山。([現]山西省永濟市の南)	『史記』封禪書索隱・五帝本紀正義に引く『活地志』によれば、雷首山・中條山・歷山・首陽山・襄山・甘藷山・猪山・獨頭山・薄山・吳山・渠山・袁山は一山異名	⑥

襄山	山丘	檀萃	雷首山	洪頤煊・陳逢衡・郝懿行説も同じ	④
—	山丘	王貽樸	雷首山。〔現〕山西省・陝西省の境		④
—	山丘	小川琢治	崇高山・單孤山。寧夏府〔現〕寧夏回族自治区銀山市西南、中衛縣西	『山海經』北次三經の崇吾山、北山經の首の單孤山は音の緩急	④
—	山丘	丁謙	〔民國〕瑪喇巴什廳の地		④
—	山丘	顧實	〔民國〕青海(省)の烏爾代克山		④
—	山丘	衛聚賢	〔現〕巴顏喀喇(ハヤカラ)山(即ち昆侖山脈)		④
—	山丘	張公量	松山。甘肅省蘭州縣〔現〕甘肅省蘭州市)以北の黄河の峡谷に臨む。	小川説を是とする	④
—	山丘	高夷吾	仇摩置。于闐の大雪山。(〔現〕新疆維吾爾自治區洛浦縣)	『水經注』による。漢の武帝が昆侖と名づけた山	④
穀丘	山丘	檀萃		郡國に在り	⑥
—	廟名	陳逢衡	河・濟の間	穀丘の廟は同姓諸侯の祖廟	⑥
—	山丘	呂吳調陽	陽穀に在り		⑥
—	廟名	孫詒讓	穀國。河(水)・濟(水)の間	『春秋』桓公七年の嬴姓の穀とは別。	⑥
—	山丘	王貽樸		陳逢衡・孫詒讓説を是とするも、具體不明	⑥
—	地名	洪頤煊	穀宮	『文選』宋孝武宣貴妃誄の注による	⑥
鴻鷺	地名	小川琢治		トルコ語のkara・日本語の異(マ→黒)と同じ。殷民族が散らばる部落(膜=薄・臺)	②
—	地名	顧實		鴻鳥・鷺鳥の産地であったので名付けられた	②
—	地名	王貽樸	〔現〕甘肅省酒泉市附近	『太平御覽』『太平寰宇記』には、酒泉に鴻鷺山がある。本傳では山ではなく河川	②
18畫					
灑水	河川	郭璞	〔晉〕洛の西(〔現〕河南省洛陽市の西)		④
—	河川	衛聚賢	灑水。洛の西、洛陽の東		④
—	河川	顧實	灑水。〔民國〕河南洛陽縣(〔現〕河南省洛陽市)西北の穀城山に出づ		④
—	河川	岑仲勉	灑水。(〔現〕陝西省)	鎬京から三、四十里	④
—	河川	王貽樸	灑水。(〔現〕河南省)		④
19畫					
曠原	地名	陳逢衡	大澤。(ハイカル湖附近)	『山海經』大荒北經は曠原のことを大澤と云い、『史記』『漢書』は翰海(ハイカル湖)と云う	③④
—	地名	小川琢治	〔現〕密機阿拉西北端	付屬の『地名表』に「曠原は鎮西の西北、…科布多(カブト)の南にある」という	③④
—	地名	沈曾植	裏(カスピ)海・鹹(アラル)海の間の大砂漠	北へ行けば、烏拉(カスピ)山の東の吉里吉斯(キルギス)高原に至る	③④
—	地名	衛聚賢	〔民國〕新疆省の和闐(ホ-タン)(〔現〕新疆維吾爾自治區和田縣)から疏勒(カシュガル)まで		③④
—	地名	顧實	南ロシア大平原及びヨーロッパ大平原を包括	曠原は「□藪水澤、陵衍平陸」の總稱	③④
—	地名	張星娘	〔民國〕阿拉爾(アラル)海東北の吉爾吉斯(キルギス)曠野		③④
—	地名	高夷吾	〔民國〕南ロシアの克薩部(カザフ)臺地か)		③④
—	地名	顧頡剛	〔現〕せいぜい新疆維吾爾自治區の哈密(ハミ)まで		③④
—	國族	岑仲勉	吉爾吉思(キルギス)高原	沈曾植説・張星娘説に従う	③④
—	地名	衛挺生	〔現〕Kizil Arvat(キシル・アルヴァト)附近。(〔現〕トルクメニスタン)	欽察草原(Kipchak Steppe)の北邊であり、黒砂漠(カラム砂漠)と裏(カスピ)海の間	③④
—	地名	錢伯泉	〔現〕楚(Chu)河のそばで、塔拉斯(タラス)草原。(〔現〕カザフスタン・キルギス)		③④
—	地名	王貽樸	〔現〕(新疆維吾爾自治區)准葛爾(ジュンガール)盆地		③④
曠野(マ)	地名	丁謙	〔民國〕裏(カスピ)海東、ロシアの雜喀斯比斯省の地。		③④
櫟丘	山丘	郭璞	櫟。〔晉〕河南(郡)陽翟縣(〔現〕河南省禹縣)		⑤

—	山丘	檀萃	[漢] 潁川郡陽翟縣([現]河南省禹縣)	『春秋』の「鄭伯入于櫟」の宋忠注による	⑤
—	山丘	陳逢衡	[漢] 潁川郡陽翟縣[清] 河南開封府禹州([現]河南省禹縣)		⑤
—	山丘	丁謙		陳逢衡説に近し	⑤
—	山丘	張公量		陳逢衡説に近し	⑤
—	山丘	王貽樑	櫟。[現]河南省禹縣		⑤
麗虎	地名	丁謙	范宮の東		⑤
—	地名	王貽樑		丁謙説を是とする	⑤
20畫					
獻水	河川	呂吳調陽	[清] 嶺順塘		③
—	河川	劉師培	裏(カスピ)海の東		③
—	河川	丁謙	[民國] 木爾加布(ムルガブ)河。謀夫城の南		③
—	河川	小川琢治	濟木薩河。([現]新疆維吾爾自治區)	博國圖山より北流	③
—	河川	顧實	[民國] 俄國(ロシア)の窩爾加河(Volga、ヴォルガ川)		③
—	河川	高夷吾	[民國] 枯班河		③
—	地名	衛挺生	[現] Bayita地方	阿母(Am)河の下流のほりにある地名	③
—	河川	王貽樑	[現] 新疆維吾爾自治區と甘肅省の境界線附近		③
蘇谷	地名	顧實	伊錫克庫爾湖(Issik Kul)	蘇は蘇生・蘇息の蘇。闐池・大清池・熱海と同じ	④
—	地名	衛挺生	那林河谷(Naryn su valley)	蘇谷は回語の河谷	④
—	地名	陳逢衡	胥谷	胥は胥の譌。『路史』國名紀の胥谷	④
—	地名	丁謙	撒馬兒罕(サマルカント)城の南の谷	蘇(麻類纖維植物)を産するを以て名づく	④
—	地名	小川琢治		諸項氏	④
—	地名	王貽樑	甘肅居延([現]甘肅省酒泉市)以西の五・六日程の處	具體定め難し	④
鷓鳥之山	山丘	檀萃	諸毗之山	『山海經』西山經・西次三經による。鷓鴣(わしとふくろう)が集まる所	②
—	山丘	陳逢衡		『山海經』西山經(マ)の申山北の鳥山。	②
—	山丘	丁謙	[民國]([現]新疆維吾爾自治區)喀什噶爾(カシュガル)東北		②
—	山丘	顧實	瑤崖、瑤之圃。[民國] 勒科爾烏蘭達布遜山(別名は薩什達爾烏蘭達布遜山)。[民國] 新疆省于闐(ホータン)([現]新疆維吾爾自治區和田)東境	『山海經』西山經・西次三經、『楚辭』涉江による	②
—	山丘	衛挺生	槐江之山	『山海經』(西山經西次三經)による。鷹鷄(たかとはやぶさ)の居る所	②
—	山丘	王貽樑		古代の昆侖山中の一山	②
21畫					
鬻氏	國族	陳逢衡	敖	『世本』による。元鷲の後	⑥
—	國族	丁謙	鬻氏の居所、敖山。[民國] 汜水縣([現]河南省汜水縣)東北	(殷)仲丁の都の傲	⑥
—	國族	王貽樑	敖山。河南(省)滎陽縣([現]河南省滎陽市)東北	(殷)仲丁の都の傲	⑥
纒	河川	檀萃	22畫「纒」参照		④
桑山	山丘	檀萃	三累山	『水經注』の「横谿之水出三累山」による	④
—	山丘	丁謙	[民國] 芮縣([現]山西省芮城縣)西南にある西から東方向に走る山		④
—	山丘	顧實	三累山。[民國] 陝西同州府韓城縣([現]陝西省韓城市)西	檀萃説を是とする	④
—	山丘	常征	累山		④
—	山丘	衛挺生	雷首	王國維がいう雷首	④
—	山丘	王貽樑		檀萃・顧實説を是とする	④
梁澗之口	國族	郭璞	渠搜國	(『尚書』禹貢の)渠搜	④
—	地名	檀萃	梁澗之湯	湯泉口	④

—	地名	呂泉調陽		禦は饗に同じ	④
—	國族	顧實	渠搜之邦	渠搜ではない。郭璞注は誤り	④
—	地名	王貽樑		渠搜ではない	④
鐵山	山丘	劉師培	鐵山。[唐・元]鐵門[民國]阿母(74)河の東	『唐書』西域傳・『元史』太祖本紀の鐵門。唐の吐火羅(古の大夏)に屬す	②
—	山丘	丁謙	[民國](達爾瓦斯部)東北の完治(Wanj)河上流。 ([現]タジキスタン)	鐵を産す	②
—	山丘	小川琢治	肅州([現]甘肅省酒泉市)以西、嘉峪關の北側、黒山の 邊り		②
—	山丘	顧實	[三國]潘賀那山[民國]帕米爾(ハミル)西の完治(Wanj) 河邊りの薩阿賴山(Alai Mts、アライ山脈)。([現]キルギ ス・タジキスタンの交附近)	『魏書』西域傳の美鐵を出す潘賀 那山	②
—	山丘	高夷吾	[民國]撒馬兒罕(サマルカント)の鐵門石峽。([現]ウズベキス タ)		②
—	山丘	衛挺生	[現](新疆維吾爾自治區)喀喇雅克、又は天山の首である 喀喇祖庫嶺。[清]英吉沙(イェンギサハ)縣の西郊。		②
22畫					
漣	河川	檀萃	漆洛		④
—	河川	孫詒讓	琿璿		④
—	河川	劉師培	漆綬		④
—	河川	丁謙	[現]拜河		④
—	河川	小川琢治	薄洛(洛)。寧夏から北方に至る間の一泉地	薄洛は准(ジュンガル)語 Balak(泉)に 相當	④
—	山丘	衛挺生	[現]狼山縣城東北(中華民國綏遠省)		④
—	山丘	王貽樑	綉璿	具體不明	④
鐵			21畫「鐵」参照		
23畫					
鐳山	山丘	丁謙	[民國]彰德府([現]河南省安陽市)境	北に漳水があることから、その南 になる	①
—	山丘	小川琢治	長平附近の山。[現]山西省高平縣([現]山西省高平市)	鐳は法と音通。趙秦の古戰場	①
—	山丘	顧實	法山。[民國]山西省澤州高平縣([現]山西省高平市)	小川説を是とする	①
—	山丘	衛挺生	穀遠山。([現]山西省沁源市か)	法山ともいう	①
—	山丘	陳建敏	[現]山西省高平縣([現]山西省高平市)	鐳は法と音通。卜辭の𠄎を鐳とする	①
—	山丘	王貽樑	[唐]澤州高平縣[現]山西省高平縣([現]山西省高平市)	小川・顧・陳説を是とする。『後 漢書』萬脩傳注による	①
24畫					
靈口	地名	檀萃	靈輿		⑤
—	地名	陳逢衡	靈丘。[漢]代郡[清]山西(省)大同府([現]山西省大同 市)	『漢書』地理志	⑤
—	地名	王貽樑		具體斷じ難し	⑤
鹽	地名	郭璞	[晉]河東解縣([現]山西省虞鄉縣東北、もしくは山西 省虞鄉縣西)		⑥
—	地名	檀萃	鹽池。([現]山西省運城縣東南の解池)		⑥
—	地名	陳逢衡	鹽池。[晉]河東解縣[清]山西(省)解州臨晉解縣の東南 ([現]山西省虞鄉縣東北、もしくは山西省虞鄉縣西)		⑥
—	地名	翟云升	河東鹽池。([現]山西省運城縣東南の解池)		⑥
—	地名	郝懿行	大陽縣([現]山西省平陸縣東北)南		⑥
—	地名	金蓉鏡	晉の郇瑕氏の地		⑥
—	地名	丁謙	[民國]解州([現]山西省解縣)鹽池		⑥
—	地名	顧實	[民國]山西(省)解州([現]山西省解縣)鹽池		⑥
—	地名	王貽樑	解池。[現]山西(省)運城縣東南		⑥

缺字					
□之山	山丘	顧實	[民國]ロシアの明斯克(Minsk)の境内		③
□山	山丘	檀萃	春山		②
—	山丘	顧實	獨山		②
□氏	國族	小川琢治		□は重容氏の一族	②
□丘	山丘	檀萃	頓丘。衛地に在り([現]河北省清豐縣西南)		⑤
—	山丘	陳逢衡	頓丘。[漢]東郡頓丘縣[清]直隸大名府清豐縣([現]河北省清豐縣西南)西南二五里		⑤
—	山丘	呂吳調陽	櫟丘([現]河南省禹縣)		⑤
□羝之隊	山丘	檀萃		『山海經』中山經の縞羝之山	④
—	地名	丁謙	羝。[民國]孟縣([現]河南省孟州市)西北境		④
—	地名	顧實	[民國]河南(省)濟源縣([現]河南省濟源市)邵源關の西北・山西(省)翼城縣([現]山西省翼城縣)の東南		④
□智□	國族	小川琢治	(禹)智(氏)(禹知氏)		③
□藪水澤	地名	顧實	[民國]黒海以北		③